

教育に関する事務の管理及び執行状況に
係る点検評価報告

(平成26年度事業)

平成27年9月
酒田市教育委員会

目 次

1	点検・評価制度の概要	1
2	点検・評価の対象	1
3	評価の基準	1
4	外部評価者の意見	2
	教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見	
	Ⅰ 全体を通じた意見	3
	Ⅱ 各事業についての意見	4
○	酒田市教育振興基本計画体系図	10
5	点検・評価の状況	
I	明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
1	確かな学力の向上	
	・ 学力向上対策の充実	11
	・ 時代に対応した教育の推進 （国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）	12
	・ 読書活動の推進	13
	・ 特別な教育ニーズへの支援	14
	・ 幼保、小、中、高の連携	15
2	豊かな心と健やかな体の育成	
	・ 生徒指導等の充実	16
	・ 体験活動、交流活動の推進（学校教育課）	17
	・ 体験活動、交流活動の推進（社会教育課）	18
	・ 相談支援体制の充実	19
	・ 基礎的運動能力の向上	20
	・ 健康教育の推進	21
	・ 食育の推進	22
	・ 安全教育、安全対策の推進	23
3	家庭、学校、地域との連携	
	・ 青少年の健全育成・地域教育力の向上・地域活動の活性化	24
	・ 家庭教育の支援	25
	・ 地域産業界、高等教育機関との連携	26
	・ 青少年指導活動の推進	27

4	教育環境の整備	
・	学校施設の整備	28
・	学校規模の適正化の推進	30
・	通学の安全確保	31
・	学習バスの運行	32
・	学校 I C T 環境の整備充実	33
・	教育の機会均等	34
・	私立学校等の振興	35
5	信頼される学校、開かれた学校づくりの推進	
・	教職員研修等の充実	36
・	学校運営の公開と学校評価システムの推進	37
・	特色ある学校づくりの推進	38
・	学校施設の地域開放の推進	39
II	世代を超えてまなびあう	
6	生涯学習の充実	
・	生涯学習推進体制の整備・生涯学習社会の基礎づくり 学習機会の提供・地域活動の活性化	40
・	学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携	41
7	図書館活動の充実	
・	図書館機能の充実	42
・	光丘文庫の保全と活用	43
・	子どもの読書活動の推進（再掲）	44
IV	歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす	
10	歴史・文化遺産の保存と活用	
・	文化財等の保存及び活用	45
・	地域における民俗文化財の保存と活用	46
・	地域資料の収集と保存	47
<参考資料>		
・	平成26年度 地域の教育力向上事業実績	48
・	平成26年度 生涯学習推進講座開催事業実績	50
・	東北公益文科大学市民講座実績（内訳）	51

1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）」第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき、作成するものである。

これにより、次年度の事業計画の検討に用いることで効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とする。

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

平成 26 年度の教育委員会の権限に属する事務について、その管理及び執行の状況を対象とする。

なお、平成 22 年 4 月策定の酒田市教育振興基本計画に記載されている施策のうち、教育委員会所管の施策を選定した。

※酒田市教育振興基本計画体系図は 10 ページのとおり。

3 評価の基準

各施策の評価については、次の視点から総合的に判断し、評価基準により A から D にランク付けを行う。

なお、事業の性質上、個別の施策にランク付けを行うことはなじまないと考えられるものについては、評価基準によるランクを示さず、今後の方向性を記載している。

(1) 主な事業の取組み内容

- ・ 施策の目的、目標に照らして、事業の内容は妥当であるか。
- ・ 事業の対象者、参加者、利用者意識して事業に取り組んでいるか。
- ・ 目標を達成するために、事業の対象者や事業の回数等は適切であるか。

(2) 事業の成果

- ・ 施策の目的、目標に照らして、意義ある成果が達成されているか。
- ・ 二次的な成果や連鎖的な効果など新たな効果がみられたか。

【評価基準】

ランク	評価基準
A	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果は目標水準以上であることから、今後も積極的に施策を推進（展開）していきたい。
B	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策としての成果には一部未達成の事業もある。 今後も概ね現行の方法、手法等により推進していく。
C	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果には一部未達成の事業もある。 今後は、課題等を踏まえ、事業の対象や手法について見直しを図りながら展開していく。
D	施策の目的、目標を達成するための課題が多く、各種事業に取り組めないでいる。大幅な事業の見直しを図る。

4 外部評価者の意見

点検・評価にあたっては、法第 26 条第 2 項の規定により、次の 2 名の外部評価者から各分野に関して意見をいただいた。

[外部評価者]

生涯学習施設「里仁館」館長 富士 直志
東北公益文科大学 教授 和田 明子

教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見

I 全体を通じた意見

昨年同様、36の所管事業について説明を受けたが、C評価が解消されたことは評価に値する。それぞれの事業のねらいを達成するためにこれまでの課題や手法を見直しながら取り組んだ結果、すべての事業にわたって一定の成果が得られたものと思われる。今後ともマンネリに陥ることなく事業目標の達成に邁進して欲しい。

昨年度の全体を通じた意見の中で、数値目標の見直しに関する要望があった。今年度の数値目標の項目を見ると多くの事業において検討した跡が見受けられた。その結果、新しい指標を設けた事業、複数の指標を設けて総合的に判断できるようにした事業、目標値をより現実的な数値に設定し直した事業、次年度から改訂する予定の指標など多くの事業についてその達成度を表すよりふさわしい指標にする努力が払われたものと評価したい。ただ、事業内容によっては必ずしも事業全体を表す指標だけではないので、説明する際は、数値が独り歩きをしないよう十分配慮する必要がある。

各事業の行政評価の資料は、原則1頁にまとめられていて見やすい体裁となっている。資料区分は、各施策の目標、実施状況、効果、課題並びに点検評価などの項目になっていて、評価に必要な項目が盛り込まれていると思われる。改善点としては、比較的大きな規模の事業の場合は必ず予算規模を明示するなど、関連する個別の計画との整合性などに触れていただくことも必要であろう。とくに、新規の大型予算の場合には、2頁にわたっての記載や、あるいは別紙としてその概要や今後の方向性などについて参考資料として添付することも望ましいと思われる。

指標の実績は可能な限り経年で示していただけるとわかりやすい。「事業の効果」の説明は、(事務量の増加につながらないよう気をつけながらも)可能な限りその証拠(量的データあるいは質的データ)を示していただけるとわかりやすい(そうでないと本当に効果があったのか、評価が困難である)。

小中学校の統廃合は、市勢調査に基づいて、おおむね順調に進展しているものと思われる。地域住民も保護者も一定の安心感を持っていると思われるが、松山の小学校統合については地域住民と市教委の間で意思の疎通が十分でなかったことは残念である。統合後も諸行事や伝統が引継がれ、また両校のよさをいかした新たな活動が生まれるなど地域の方々が元気で子どもたちを支援できるような取り組みも必要であろう。

事業展開に際しては、こうした教育委員会の各種事業の概要だけでなく様々な成果や実績などについても周知を図り、それに対する意見を聴取する機会をもつなどの取り組みを期待したい。とくに今年度は酒田市教育振興基本計画の後期計画が策定された年度であるため、改めて基本計画にある基本的方向の周知を図り、併せて前期計画で得られた成果と今後の課題について報告する好機と思われる。対象者も教育関係者のみならず、児童生徒や保護者の方々、議員の方々、地域で学校を支えて頂いているの方々、行政の方々、そして産業界や教育に関心を持つ市民の方々など機会を捉えて挨拶や集会のスピーチに織り込むなどの工夫が求められている。

「生涯学習施策の体系図」を作成しHPで公表していることにあらためて敬意を表する。今後は市役所内の関係各課で同体系図がより一層活用され、関係事業の重複の解消等が図られることが望まれる。

これまでも努力されてきたように、現場の教員が子ども達に多くの時間を割くことができるよう今後とも引き続き最大限の配慮をお願いしたい。

本点検・評価も開始から6年が経過した。一般に行政評価は継続するにつれマンネリ化してしまうことが課題であるので、酒田市教育委員会においてはそうならないよう工夫していくことが今後の課題であるように思われる。

II 各事業についての意見

1 確かな学力の向上

(1) 学力向上対策の充実

- ・昨年度の全国学力学習状況調査の結果を見ると、この事業の中核をなす学力向上対策事業によって、全国平均を上回るあるいは全国平均に準ずる結果を得ている。
- ・しかし、その分析をみると科目別・領域別ではいくつかの課題が残されている。この事業は、学校教育の根幹をなす施策であるため引き続き継続して、さらに高い成果をあげるため、課題を克服する手立てを見つめる努力を期待したい。

(2) 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）

- ・酒田市ならではの活動である「はばたき」や「中村ものづくり」は、国際理解教育や探究的な科学教育の動機づけとして大きな貢献をしてきている。
- ・こうした活動に参加した子ども達が更に高い目標をもって活動したり、体験した驚きや決意を発表したり活字に残すことで、そのよさを次の子ども達に伝えて欲しい。

(3) 読書活動の推進

- ・「読書はあらゆる学習活動の基盤である」ことから、とくに中学校では学校での読書活動だけでなく、各家庭でも本を大事にする雰囲気を作ることが重要である。
- ・学校では、できるだけ集団読書の機会をつくることで、様々な世界に触れる経験を交流し、読書の楽しさとコミュニケーションの力を伸ばしたい。
- ・「ブックスタート」や「学校での読書活動の推進」等により読書の習慣が定着してきていると感じられるのは心強い。

(4) 特別な教育ニーズへの支援

- ・国の削減部分を一部補てんした教育支援員の増員によって、現場の適応支援体制は何とか維持できたが、今後も適切な支援員の配置・増員が求められている。
- ・同時に発達障害の児童生徒への巡回指導の依頼も多く、巡回相談員の訪問要請が現場の高いニーズとなっている。
- ・教育支援員を配置したことは高く評価される。今後とも現場の要請に応じて人員を増やしていくことが望まれる。

(5) 幼保、小、中、高の連携

- ・中高連携については、これまでの数学教員や英語教員の相互研修の実績を契機に全ての教科で研修交流を通じて、互いの役割を明確にしていくことが求められている。

- ・さらに大学等の知や技術を広く市民に還元するシステムの一つとして「幼保、小、中、高、大等の連絡協議会」のような組織の設置が有効であると思われる。
- ・今後は「小中」そして「中高」の連携が課題である。

2 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 生徒指導等の充実

- ・児童生徒が様々なボランティア活動を経験することで、公益の心を育むことにつながる。発達段階に応じた社会貢献活動を学校内外で実践することが求められている。
- ・各学校の教員は、Q Uテストの結果を的確に分析する力を身に付け、児童生徒の心の動きを察知したり把握する能力を高め、早期対応に努めて欲しい。
- ・「公益」とは一定の価値観を上から押しつけるものではなく、むしろ逆に「一人ひとりが違うこと」「それぞれの異なる考え方を尊重すること」を起点とする概念である。道徳教育の充実と合わせて「公益の心」を涵養していく場合には、その点に十分に注意する必要があると思われる。

(2) 体験活動、交流活動の推進

- ・現在、酒田市を含む3市1町で進めている鳥海山・飛島ジオパーク構想があるが、ぜひ児童生徒も地域のもつ自然のよさや素晴らしさを感じる活動を期待したい。
- ・本事業は、本来は社会教育課の事業と思われるが、今後は社会教育課に社会教育主事(補)等の資格を持った学校教員を配置して実施することが望ましいと思われる。
- ・従来 of 事業を見直した社会教育課の姿勢は評価される。民間団体が多くの「体験活動、交流活動」を実施している中、行政にしかできない活動とは何かを今後とも考えながら、行政にしか果たせない役割を果たして欲しい。

(3) 相談支援体制の充実

- ・全国や県と比較する上で、不登校児童生徒の出現率が小数の%で表示されているが、一般的にはわかり難い。これを補足する数値や説明があると読み取り易い。
- ・ここ4年間における小中合計の出現数は最も少なく、各種支援事業は一定の成果を収めていると思われる。さらに、貧困やネグレクトなどの家庭状況の把握に努め、関係機関と連携しながらの早期の対応や支援の手が求められている。

(4) 基礎的運動能力の向上

- ・掲げられている目標は、運動能力の一つの側面を代表しているが全体を表している訳ではない。補足的な説明を加えることで運動能力の総合的な向上が図られているのかどうかを客観的かつ科学的に吟味して欲しい。
- ・昨年度は井村氏の指導が功を奏したのか、かなり良い結果が得られた。こうした状況が一過性に終わることなく地道な努力を期待したい。

(5) 健康教育の推進

- ・発表内容をDVDで作成して各校に配布した活動は、健康教育を普及する具体的な活動として評価できる。養護教諭等が担当して取り組んでいる保健委員活動や研究発表を交流することで地域全体の健康増進に寄与できると思われる。

(6) 食育の推進

- ・地産地消のバロメーターとして、地元産野菜の利用率と同時に地元産食材の利用率も併せて掲載して複合的に捉えることができたのは大変分かりやすかった。
- ・児童生徒が新鮮な食材かどうか地元の食材かどうかを区別できる感覚を身に付け、身体に

良い食材を見分ける食感や観察力・嗅覚などを磨いて欲しい。

- ・給食費が低額におさえられる中で満足感のある献立にするための努力が感じられた。今後とも育ち盛り子ども達が満腹感を得られるよう、献立を工夫してほしい。

(7) 安全教育、安全対策の推進

- ・避難訓練の際に「自分で考える場面」を設定したり、学区内の「安全マップ」を作成する活動が紹介されていたが、これらの取り組みは児童生徒自身が、とっさの判断で「生き延びる力」を養う優れた活動であると思われる。
- ・道交法の改正によって、児童生徒が思わぬ加害者とならないよう自転車のルールやマナーを保護者も含めて、学校等できちんと教える必要がある。
- ・「見守り隊」「地域学校安全指導員」をはじめとする多くの関係者のおかげで酒田市の子どもの安全が守られていることにあらためて敬意を表する。

3 家庭、学校、地域との連携

(1) 青少年の健全育成

- ・コミ振毎の「地域の教育力向上」活動や「地域の先生」事業では、その地域の特性を生かした活動や得がたい地域の名人に支えられた多彩な活動が展開されている。
- ・小学生のお泊まり会に参加したりや巨大迷路を企画運営した高校生ボランティア「かざみどり」の活動は地域の方々に大きな元気を与えている。こうした活動につながる中学生のボランティア活動への参加促進やグループの育成も大きな課題である。

(2) 家庭教育の支援

- ・生涯学習推進講座では、11 事業中 4 つの新規講座を開催するなど意欲的な取り組みが感じられる。さらに課題を克服して参加者増につながる魅力や改善を期待したい。
- ・育児や子どものかわいらしさを体験する「赤ちゃん登校日」の事業は、準備が大変であるが、すべての中学生が触れ合えるよう計画的に実施してほしい。

(4) 地域産業界、高等教育機関との連携

- ・中学生職場体験は、各中学校とも体験先の職場確保や準備等で大変苦労されていると思われる。それだけに、この貴重な体験を事前学習だけでなく、事後学習にも教材化して「働くことの意味」や「自らの適性」「産業とは何か」などについて適切な理解を深めながら将来のキャリア教育につなげて欲しい。
- ・「目標」に書かれている「高等教育機関との連携」が何を指しているのかが必ずしも明確ではないように感じられる。東北公益文科大学との連携は様々に行われていると思うが、そのうちどの点に絞って書かれているものなのかが不明瞭であるように感じた。

(5) 青少年指導活動の推進

- ・生徒指導上、中高教員にとって、青少年指導センターや酒田警察署生活安全課などの情報は極めて重要である。今後も関係機関と連携して、機敏な取り組みを期待したい。
- ・最近ネット上での誹謗中傷などのいじめ件数が増加している。定期的な監視と共に掲載削除の依頼も含めて、情報が拡散する前の早期の対策・処理が求められている。
- ・「見守り隊」「青少年育成推進員」をはじめとする多くの関係者のおかげで酒田市の子どもの安全が守られていることにあらためて敬意を表する。

4 教育環境の整備

(1) 学校施設の整備

- ・耐震化工事や小中学校の校舎及びグラウンドの整備も順調に進んでいると思われる。とくに、津波対策用の屋上フェンスの設置も計画的に進んでいると思われる。
- ・施設整備は児童生徒のみならず地域や保護者にも大きな信頼感を与えている。和式トイレから洋式トイレへの付け替えも順次進める必要がある。
- ・閉校後の跡地利用方法について、関係各課が連携・協力して決定・実施していくことが望まれる。

(2) 学校規模の適正化の推進

- ・将来の教育人口統計をもとに統廃合を進めているが、とくに近い将来複式学級となる人口減少地域では、客観的な状況を伝え十分な話し合いを持っていると伺っている。
- ・ただし、松山地区の3小学校統合に当たっては、地域と市教委の間で意思の疎通が十分でなかったことは残念である。今後の推進のための試金石にして欲しい。

(3) 通学の安全確保

- ・先般、登校指導中の指導員が無謀運転の犠牲になってしまったが、地域安全学校指導員や見守り隊の活動は市民に大きな安心感を与えている。今後も学校、地域、警察の三者の連携の下、指導員自身も含めた安全な登下校指導が求められている。
- ・スクールバスの運行費用は小中学校の統廃合等によって昨年の1.5倍に増額しているが、どのくらいの児童生徒が利用しているのか示して欲しい。
- ・「見守り隊」「地域学校安全指導員」をはじめとする多くの関係者のおかげで酒田市の子どもの安全が守られていることにあらためて敬意を表する。

(4) 学習バスの運行

- ・校外学習のバス使用については昨年比約2割増であるが、どんな使われ方がなされているのか使用目的などを明示して欲しい。
- ・学校現場で柔軟かつ効率的にバスを利用できるよう、スクールバス・学習バスの契約内容を見直してはどうか。

(5) 学校ICT環境の整備充実

- ・機器の活用ができる教員は年々増加している。教科や領域の性格上利用のばらつきはあると思われるが、今後は実際の利用率を期間や期限を区切って調査公表して欲しい。
- ・学校現場でICTが効果的に活用されていること、そして教員のICT活用能力が高いことに敬意を表する。

(6) 教育の機会均等

- ・京野基金や利子補給、私学助成などについては給付交付型で国や県の制度を補完している。生徒・保護者の負担を軽減する施策であり、評価できる。

(7) 私立学校等の振興

- ・減額せずに特色ある私立高等学校へ補助金を交付している点は評価できる。
- ・私学関係者は勿論のこと、私学に通学している高校生や保護者にとっても意義ある支援対策費と思われる。

5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進

(1) 教職員研修等の充実

- ・教員は常に職責を全うするために、研修と修養が義務付けられている。初任者、5年目、10年目の制度的な総合研修のほか、教員が様々な領域に精通するためには現代的な課題を含めてひとつひとつ学ぶことが重要である。とりわけ「いじめ」「体罰」については早期

に対応できるようなスキルを身につける必要がある。

(2) 学校運営の公開と学校評価システムの推進

- ・児童生徒、保護者、教職員そして学校評議員や学校関係者評価などの評価結果は地域を含めた関係者に公開するとともに、課題になっている点については学校長が責任をもって説明して今後の対応策や方向についても述べるのが重要である
- ・学校評議員や学校関係者評価の人選については、職名に長のつく人だけでなく積極的に意見を頂戴できる方々に参加して頂くことも重要である。

(3) 特色ある学校づくりの推進

- ・学校裁量交付金は、学校独自の活動を支援できる有効な事業で学校の満足度も高い。各学校の課題に応じた活動を展開できるので、学校運営に大きく資することができる。

(4) 学校施設の地域開放の推進

- ・学校施設は十分に開放されており、かつまた十分利用されており、学校と地域が関わる機会の提供にもつながっている。
- ・利用者にとっては貴重な施設で、住民の生涯スポーツや生涯学習に大きく寄与している。

6 生涯学習の充実

(1) 生涯学習推進体制の整備 (2) 生涯学習社会の基盤づくり (3) 学習機会の提供

(4) 地域活動の活性化

- ・各世代にわたって、多くの講座を開講しており、多様なニーズに対応している。とくに、青年講座や成人講座では、参加者を広げながら、社会の要請や地域の活性化につながるテーマ設定と育成に尽力して欲しい。
- ・竣工した松山城址館を拠点とする歴史公園の整備が終了した。単年度で億単位の予算を計上している新規事業であることを勘案すると、歴史公園や施設の概要や今後の利活用についてA4一枚にこだわらず丁寧な説明が欲しい。
- ・「生涯学習推進講座」のアンケート結果集計方法を見直す必要があるように思われる。
- ・「知の循環型社会」を構築するためには、社会教育を市内で行っている主要関係団体（キーパーソン）が意見交換・連絡調整できる場が必要ではないか（市社会教育課は市内で行われている社会教育活動をコーディネートする立場になるのではないか）。

(5) 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携

- ・補助団体については、会員数や活動状況を踏まえた適切な補助金の算定が望まれる。
- ・各団体の現在の活動内容を十分に把握しながら、適正な補助とは何かを今後とも検討し続けてほしい。

7 図書館活動の充実

(1) 図書館機能の充実

- ・貸出冊数の数値が、年間貸出総冊数から一人あたりの年間貸出冊数になったことで非常に分かりやすくなった。これを見るとこの4年間では、ほぼ同じ冊数が貸し出されていることがひと目で見て取れる。魅力ある企画展や新刊ガイドに期待したい。
- ・今後は、例えば、年間百冊以上借りてフルに活用している図書館利用者の人数を紹介するなど、知の拠点としての豊かな読書環境づくりに工夫して欲しい。
- ・市の各種行政計画の収集・配架について、図書館でできなければ建設中の新市役所に整備できないかを検討してはどうか。

(2) 光丘文庫の保全と活用

- ・彩色された 59 冊の両羽博物図譜を含む松森胤保(まつもりたねやす)の著書 187 冊など膨大で貴重な資料が保存されている。こうした資料を市民や子どもたちに郷土の偉人として紹介して、地域の自然史に大きな貢献を果たしたことを伝えて欲しい。
- ・豊富な所蔵資料を活用した企画展やギャラリートークを開催して入館者が増加していることは評価できる。

(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）

- ・上記の(1)と同様、貸出冊数の数値が年間貸出総冊数から一人あたりの年間貸出冊数になったことで非常に見易くなった。これを見ると昨年度よりも若干ではあるが伸びていることが、総冊数では分からなかった部分として見て取ることができる。
- ・子どもの読書冊数は、各学校図書館での貸し出し冊数と総合して分析する必要があるが、ブックスタート事業の地道な積み重ねの結果、乳幼児へ読み聞かせをする保護者の数が増加していることは将来の本好きの子どもを育成する上で評価に値する。
- ・「ブックスタート」や「学校での読書活動の推進」等により読書の習慣が定着してきていると感じられるのは心強い。

10 歴史・文化遺産の保存と活用

(1) 文化財等の保存と活用

- ・国や県の文化財指定を受けるためにも専門職員の養成・配置が急務ではないか。
- ・「旧燈屋」の入館料等収入が僅かでも増加していることは指定管理者の努力として評価される。
- ・市の文化財行政を進めていくためには「行政的知識」だけではなく「専門的知識」を持つ職員が必須であるので、計画に記載された「専門職員の養成・配置」がどのようにしたら可能か、あらためて工夫・検討する必要がある。

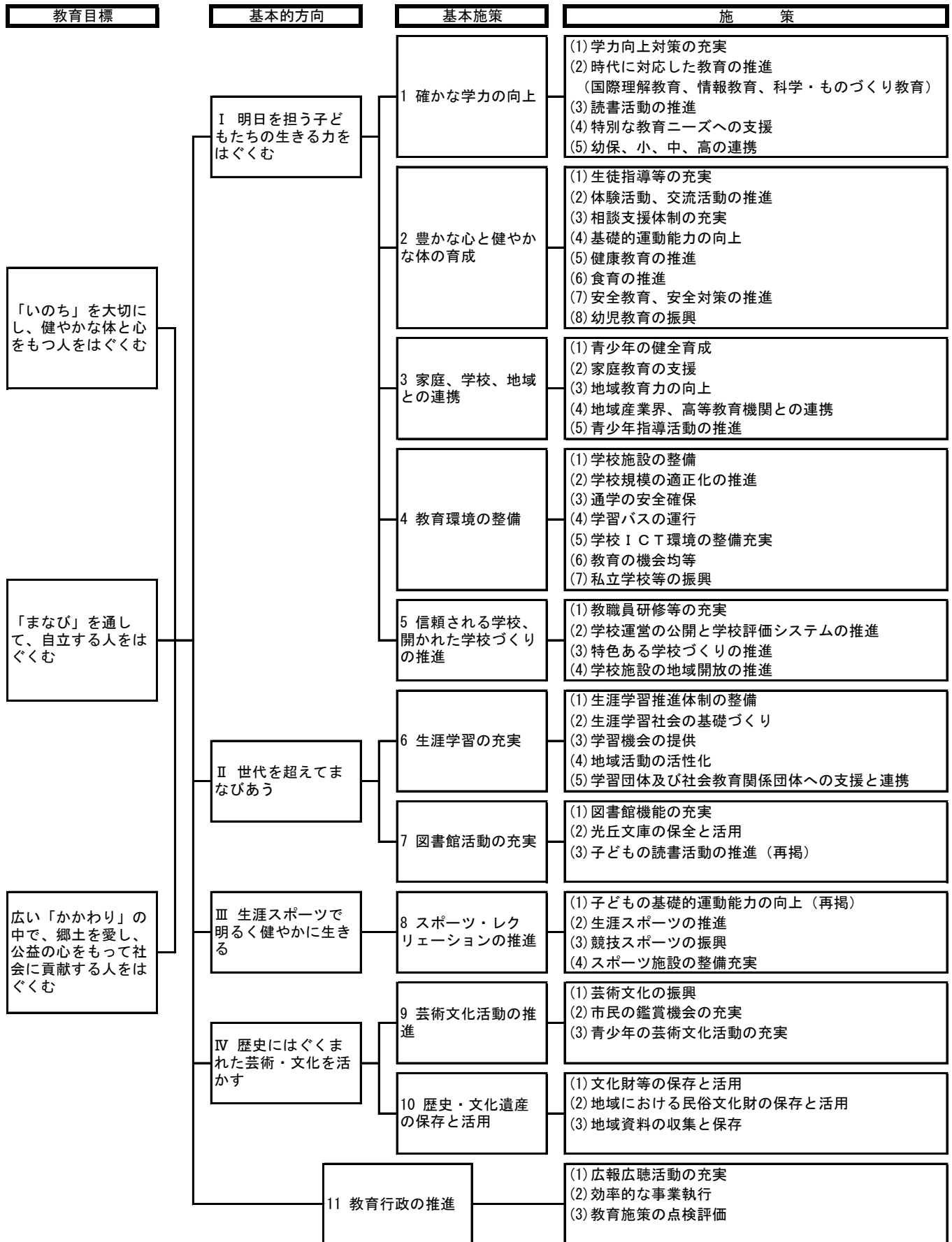
(2) 地域における民俗文化財の保存と活用

- ・各団体の最大の課題は後継者の育成であるが、小学校から中学校への継承については関係の学校全体で地域の伝統芸能を守り育てる気風を醸成することが肝要である。
- ・素晴らしい伝統芸能の祭典「民俗芸能フェスタ」を児童生徒も含めて多くの市民が鑑賞できるような環境整備を期待したい。

(3) 地域資料の収集と保存

- ・3館とも施設環境や地理的条件に課題がある施設だが、各館とも入館者を伸ばしている点は評価できる。今後も魅力的な企画展示やギャラリートークを期待したい。
- ・市立資料館の職員の熱意・努力に敬意を表する。
- ・松山城址館が開設されたので、周辺施設と合わせて旧酒田市からの誘客をぜひ工夫してほしい。

酒田市教育振興基本計画体系図



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1 確かな学力の向上
施策	(1) 学力向上対策の充実
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の能力・学力を把握し、教師の授業改善や読書活動の充実を図る取り組みを通して、児童生徒の学力向上に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問指導を通し、「確かな学力」を育成するために授業改善を図る。 ・小学校4年生から中学校3年生全員を対象に学力検査を実施し、児童生徒の学力の傾向を分析するとともに、各校での指導に生かす。 ・全教科に、全国標準以上の学力を目指す。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学校訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で実施した48回の授業研究会に延べ144名の指導主事を派遣し授業改善に向けた指導・助言を行った。 <p>○学力向上対策事業【予算現額9,789千円】【決算額9,505千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生から中学校3年生までの全児童生徒を対象に学力検査を実施し、その結果をもとに小中校長会の検討委員会で調査分析し調査報告書を作成した。 ・小中授業力向上研修会を行い、小中学校の枠を超え、算数・数学科の「学習指導要領が求める授業」のあり方について理解を深めることができた。 <p>○教育研究所運営事業【予算現額848千円】【決算額608千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域毎の研究部で授業研究会や研修会を延べ88回実施した。 	
事業の効果	
<p>○ひとつの学習内容のまとめや1時間の中で児童生徒につけたい力を明確にした授業、一人一人の学習状況を適切に評価し指導に生かす授業が多く見られた。</p> <p>○標準学力検査において、小学校では全教科、中学校では3学年合計14教科中10教科（71%）について全国標準（50.0）を上回った。</p> <p>○小中授業力研修会において当該校では事前から講師が関わり、単元を通した授業づくりが進められ、指導力向上において成果を上げている。</p> <p>○酒田市教育研究所の各研究部が、児童生徒の実態をもとに課題を設定し、授業研究会や外部講師を招聘しての研修会を開催することで、学習指導要領の趣旨に沿った授業改善が図られた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学び合い高め合う学級づくりが学力向上のベースになることから、平成27年度よりQ-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を導入し、生徒指導と学習指導を一体ととらえ、自己指導能力を高めていく。 ○NRT分析のための研修会を実施したり、全国学力学習状況調査を分析し公表したりすることで、指導者が児童生徒の成果と課題についてより明確にして授業改善に取り組む。また、学力向上推進委員会を立ち上げ、学力向上対策事業について検討していく。 ○教科の特質に応じた言語活動を設定して、授業の構成や進め方を工夫していくよう、要請訪問等を通して各校に指導していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1 確かな学力の向上
施策	(2) 時代に対応した教育の推進(国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> A L T を効果的に活用することで、英語を使つてのコミュニケーション能力を高めることができるようするとともに、中学生海外派遣事業「はばたき」を通して、国際感覚の基礎を身につける。 情報教育担当者会での研修を通して教員の指導力を高め、児童生徒の情報モラル及び情報活用能力の向上を図る。 理科教育センター各事業及び中村ものづくり事業の活動を通し、身近な現象を科学的に解き明かす力の育成やものづくりの楽しさを感じさせるようにする。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○外国人英語講師招致事業【予算現額14,984千円】【決算額13,545千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校では、外国語時間数増に対応してA L T (外国人英語助手) とのT T (ティームティーチング) 授業増を可能とし、小学校5、6年生全クラスでA L T とのT T を12時間実施した。 <p>○中学生海外派遣事業「はばたき」【予算現額6,663千円】【決算額6,481千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 22名の中学生(男子10名、女子12名)をオハイオ州：デンプシー中に派遣した。5泊6日のホームステイでは、団員が一人ずつ、受け入れ家庭に宿泊し、国際交流を図った。 <p>○情報活用能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報教育担当者会において、情報モラル及び情報活用能力の育成を図る指導の在り方を研修し、各校の指導に役立てるようにした。 <p>○中村ものづくり事業【予算現額4,848千円】【決算額4,848千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジものづくり塾(年間8回開催、塾生34名)、サイエンス発明教室①(4領域77名)、サイエンス発明教室②(2領域63組)、ものづくり出前授業(延べ27校763名)を実施した。 10年目記念事業として、米村でんじろうサイエンスショー(児童・生徒・保護者500名)を行った。 <p>○理科教育センター推進事業において、理科自由研究相談会を実施し、酒田市教育委員会科学賞に多くの児童が応募した。</p>	
事業の効果	
<p>○小学校への12時間A L T を派遣し子どもたちがネイティブスピーカーの英語をたくさん聞く機会を確保した。また実際にA L T と会話できた喜びは、外国語を学ぶ興味関心を高める効果大きい。</p> <p>○「はばたき」ではデンプシー中学校での日本文化の発表と現地の子どもたちへの指導の場面が、積極的にコミュニケーションするきっかけとなり、英語を使い伝えあうことに自信を高めることができた。</p> <p>○情報モラルを行動として身に付けられるような指導を進めることができた。</p> <p>○2回のサイエンス発明教室、通年のものづくり塾、出前授業を通じ、ものを創ることの喜びを実感すると同時に、科学への興味関心を高める機会となった。</p>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が外国語を学ぶ楽しさを実感できている。小学校の教員を対象に行っている外国語活動研修会をさらに充実させていく。 ○P T A、児童生徒向けの情報モラルに関わる研修会の実施を積極的に推奨していく。 ○ものづくり事業については、事業内容の整理統合を進め、対象や内容を見直し、分かりやすく参加しやすい事業を展開できている。 ○理科自由研究相談会は好評であり、今後も続けていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	1 確かな学力の向上					
施策	(3) 読書活動の推進					
担当部署	学校教育課					
施策の目的及び目標						
○目的						
・読書活動を充実させるため、本との多様な出会いを工夫するとともに、読書に親しめる環境の充実を目指す。						
○目標						
		H23結果	H24結果	H25結果	H26結果	H31目標
学校図書室貸出冊数 (1人当たり月平均)	小	7.3冊	8.3冊	8.8冊	9.2冊	10冊
	中	0.4冊	0.6冊	0.63冊	0.73冊	2冊
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況						
○各小中学校への図書専門員の配置						
・29名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書の環境整備を行った。						
○図書購入費の各小中学校への配当						
・小学校15,210千円、中学校12,764千円の図書を購入した。						
○図書館教育研修会の実施						
・全国表彰を受けた遊佐小学校の図書室を会場に、子どもの視点に立った図書室環境の整備や工夫など、優れた実践の様子を直接見聞きして研修を深めた。						
○読書指導研修会の実施						
・県の読書活動推進プロジェクト対象校の実践発表から、読書指導に対する理解を深めた。実践的な取り組みの紹介と活発な質疑応答が行われた。						
事業の効果						
○図書専門員の間で管理システムの活用や読書環境整備に対する意識が向上し、特に小学校においては読書量や読書意欲が高い水準で維持されている。						
○学校図書館の標準冊数充足率は市全体として小学校で115.0%、中学校で108.4%である。中学校の充足率は、近年学校統合が続いたことで除籍や廃棄が進み、25年度は100%を切っていたが、26年度は新たな統合がなく、各校で新刊本の購入を進めたため、回復している。						
○図書館教育研修会の会場を学校図書館にしたことで、図書館経営の向上に必要な知識と技術に直接ふれることができた。特に「子どもの視点に立った図書環境づくり」や「PTAや地域と連携した図書館運営の在り方」など、具体的な実践へつながる研修となった。						
○読書指導研修会の実施により、「読書記録から、発達段階に応じた選本へつなげる工夫」や「授業の学びを広げ、深める図書室の活用」など、今後の読書指導に役立つ優れた実践を共有することができた。						
○小学校において年間一人100冊以上利用した学校は16校ある。						
点検結果・自己評価（課題・方向性）						
評価	B	○図書専門員の配置と図書購入費の各小中学校への配当により、学校図書館の環境充実が図られている。 ○朝読書、読み聞かせ、並行読書など、「本にふれる」機会や時間が多様な形で確保され、貸出冊数の増加につながっている。さらに、「酒田市子ども読書活動推進計画」にある取り組みを充実させ、中学生の学校図書館利用促進へとつなげていく。 ○図書館リスタート事業の中の、「学習・情報センター」としての学校図書館機能を高め、各教科と関連した本を手にとれる環境づくりを進めるよう、各校に指導していく。				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1 確かな学力の向上
施策	(4) 特別な教育ニーズへの支援
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADHD（注意欠陥多動性障がい）・LD（学習障がい）・広汎性発達障がいなど、個別の支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難であったり、長期入院のため学習の遅れが心配される児童生徒に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心に、相談や支援が組織的に行われるようにする。 ・教育支援員等の適正な配置により、一人一人の教育的なニーズに沿った指導・支援を行う。 ・日本語指導講師等の派遣により、日本語や病気での困難さを抱える児童生徒が、学校での生活に早期に適應できるようにする。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学習適応支援体制推進事業【予算現額53,548千円】【決算額52,321千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任の補助を担当する教育支援員40名を、小学校19校・中学校7校に配置した。1日6時間、年間200日勤務。年間3回の研修会・情報交換会を実施した。 <p>○ADHD等支援体制推進事業【予算現額4,545千円】【決算額4,096千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の特別支援教育コーディネーター（教員が担当）を主な対象とし、児童生徒一人一人の障がいに応じた具体的手立ての研修会を2回実施した。 ・保護者研修会（ペアレントトレーニング）の開催（5回×1グループ）、2名の特別支援教育巡回相談員による巡回指導（25校延べ256回）を実施した。（H25は延べ235回） <p>○日本語指導講師等派遣事業【予算現額1,241千円】【決算額624千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導講師の派遣174回、長期入院児童生徒への学習アドバイザー派遣15回。 	
事業の効果	
<p>○学習適応支援体制推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援員が、配置のねらいに沿って機能している。年3回の研修会・情報交換会を通して、特別な支援を要する児童生徒への適切な対応ができるようになってきた。 ・教育支援員の配置により、対象児童生徒が落ち着いた学校生活を送れるようになってきた。 <p>○ADHD等支援体制推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施により、検査結果を生かす支援の在り方を考え、特性の理解を深めた。 ・学校と巡回相談員との連携が進み、より実践的で充実した対応をすることができた。 <p>○日本語指導講師等派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個の困り感に応じた対応をすることにより、児童生徒が学校での生活に適應することに大いに役立っている。 	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別の支援を要する児童生徒の増加に伴い、各校からの教育支援員の配置の増員が強く求められている。今後も対象児童生徒の状況を細やかに把握するとともに、教育支援員を適切に配置していく必要がある。 ○各種研修の実施や、酒田特別支援学校・巡回相談員による巡回指導を通して、特別支援教育についての意識が高まり、学校や保護者との相談が充実してきている。そのため巡回相談員の派遣希望が、増加傾向にある。福祉課等との連携を強化し、幼児期からの支援をより一層推進していく。 ○日本語や病気の困り感を抱えた児童生徒への個別の対応で、児童生徒が安心して学校生活を送ることができた。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1 確かな学力の向上
施策	(5) 幼保、小、中、高の連携
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校と高等学校が連携を図り、育ち・学びのつながりを重視した児童・生徒への支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校が連携し、保育や指導についての相互理解を深め、学びの連続性を考慮した指導に生かす。 ・小学校と中学校が連携し、各中学校区をまとまりとした教職員の相互研修会を実施することで、9年間を通したまなびのつながりを重視した指導に生かす。 ・中学校と高等学校が連携し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実を推進する。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」（子育て支援課）の場で幼保小の今後の連携のしかたやこれからの幼児教育振興計画について研修した。</p> <p>○幼保小指導者研修会（子育て支援課）において、幼保小の接続を考慮した入学準備プログラムについて意見交換したり、東北公益文科大学の國眼眞理子先生から、幼保小連携を一步進めるための取り組みについて講話いただいた。</p> <p>○幼保小指導者相互職場体験研修（子育て支援課）において、幼稚園、保育園、小学校の職員が互いの教育観、保育観を理解したり、子どもの様子を観察することができた。</p> <p>○「小中授業力向上研修会」として算数・数学に特化し、平田小学校と第二中学校を会場に研修した。</p> <p>○鳥海八幡中学校で行われた「中・高教員派遣研修」事業により英語教員が互いに研修を深めることができた。</p>	
事業の効果	
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」では、これからの幼保小連携のしかたについて話し合い、方向性を確認することができた。</p> <p>○幼保小指導者研修会は、グループ演習をとりいれ、ワークシートを使いながら活発に話し合うことができた。幼稚園、保育園と小学校の先生方が、それぞれ子どもの見取り方を出し合い、伸ばしていくために話し合うことができた。</p> <p>○幼保小相互職場体験研修では、子どもの発達段階を理解し、指導や保育に係る課題を共有化し、日常の実践につなげることができた。</p> <p>○小中授業力向上研修会では、酒田の課題となっている算数・数学の学力向上に向けて、小学校と中学校の教職員が互いの授業を見合い、指導のポイントを話し合うことができた。講師の先生からは子どもたちの意欲を引き出す、主体的な学習について助言をいただいた。</p> <p>○中・高教員派遣研修では、中高の英語教員が情報交換し中学校の課題を再確認できた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相互職場体験や幼保小指導者研修会を重ねることで、幼稚園、保育園と小学校における子供の見取り方や教育観の理解は進んできた。今後も発達段階と学びの連続性を考慮した指導について研修を深めていく。 ○小中のつながりでは、本市の課題である算数・数学に特化して授業力を高めていく研修ができていく。 ○就職、大学進学することを考えた時に、中学卒業時に子どもたちに求められる課題を中高の情報交換の中で確認していくことを継続していく。 ○学力を支える土台として、学習規律や学習習慣が身につけていること、適切な人間関係づくりができる力が大切であり、小中連携して高めていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(1) 生徒指導等の充実
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標 ○目的 ・響き合うあたたかな心をはぐくむような生徒指導の充実を図る。 ○目標 ・学校教育指導（経営訪問、計画訪問、要請訪問）等を通して、心が通い合い、高め合う集団づくりを育むとともに、道徳教育の充実と「公益の心」の涵養を図る。	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況 ○学校教育指導 ・学校教育の重点に沿った各校の経営の重点及び指導の重点を立案する際に、児童生徒の自尊心や所属感を高める指導、「公益の心」の涵養のための教材開発や体験活動の工夫、担任力（学習指導力、生徒指導力、特別支援教育力）向上を大切にするよう指導した。 ○心が通い合い高め合う集団づくり ・酒田市生徒指導主事会議、小学校生活指導連絡協議会、中学校生徒指導連絡協議会において情報交換を行い、児童生徒の主体性を大切にした児童会、生徒会活動の推進を指導した。 ・保護者からも2回いじめアンケートを行いいじめについて学校と家庭が連携して取り組んだ。 ・市民全体でいじめ防止に取り組んでいくために「いじめ防止基本方針」を策定した。 ○道徳教育の充実と「公益の心」の涵養 ・要請訪問を通して、道徳教育推進教師を中心に、学校の重点、各学年の重点の内容を年間を通じて計画的に指導して行くことを指導した。	
事業の効果 ○子どもたちが主体的に取り組める授業を目指す意識に高まりがみられる。 ○特別支援教育について校内体制を改善し、児童・生徒に応じた支援が行われている。 ○学校行事、児童会・生徒会活動では児童生徒の主体的な活動が展開されてきた。 ○丁寧なアンケート調査により、認知件数は増加しているが保護者とも連携した早期の適切な対応につながっている。 ○道徳の年間計画が見直され、学校教育全体で児童生徒の道徳性を高める取り組みとなった。 ○公益の心の涵養につながる勤労生産的体験活動及び社会奉仕体験活動が、多くの学校でも実施されるようになってきた。特に、総合学習を通じてボランティア活動を考えるなどの取組に広がりが見られる。	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価 B	○児童生徒理解を大切にし、児童生徒に寄り添い支援する担任の意識をこれからも大切にし、担任力を高めていく。 ○授業を通じて児童生徒の良さを伸ばしていくことを大切にする。授業の中での生徒指導の意識を高めていく必要がある。 ○主体性を伸長する児童会、生徒会活動を継続してすすめていく。 ○家庭と連携し基本的な生活習慣を身につける取組を大切にしている。 ○SNSによるコミュニケーションが平成25年以上に広がっている。情報モラルを家庭と連携し、浸透させていく必要がある。 ○心が通い合い高め合う集団づくりの構築に向け、全小・中学校でQ-Uテスト（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を有効利用して行く。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(2) 体験活動、交流活動の推進
担当部署	学校教育課

施策の目的及び目標					
○目的					
・日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに、自主性や協調性を養い、生きる力を育む。					
○目標					
・体験活動や交流活動を通し、人や自然とのかかわりの中で思いやりの心や自然の営みへの感謝の心の育成を図る。					
		H24	H25	H26	H31
交流活動参加 児童の満足度	飛島いきいきスクール	98%	95%	100%	95%以上
	自然体験学習	93%	90%	92%	95%以上
	少年の翼	100%	97%	100%	95%以上

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
○飛島いきいき体験スクール支援事業【予算現額1,459千円】【決算額1,158千円】	
・4小学校、児童328名参加（H26：4校215名、H25：6校328名、H24：9校455名）	
・飛島小・中学校を活動拠点とし、2泊3日で野外観察やイカ釣り等の体験学習及び飛島小学校児童との交流を実施した。	
○自然体験学習推進事業【予算現額2,283千円】【決算額2,145千円】	
・8小学校、児童408名参加	
・鳥海高原学習旅行村を基点として、トレッキングや登山、自然環境を活用した体験活動やエコバックづくり等のクラブ活動を実施した。	
○少年の翼交流事業【予算現額3,437千円】【決算額3,034千円】	
・沖縄訪問：12月14日(日)～18日(木) 5年生17名、6年生15名、受け入れ：天底小学校	
・受け入れ：2月10日(火)～13日(金) 今帰仁村 6年生36名、交流担当校：新堀小学校	

事業の効果	
○離島の自然・歴史・文化等について学び、島民と触れ合うことを通して、飛島のよさについて児童自ら考えるとともに、自然や人とのかかわりの大切さを実感することができた。	
○本市の鳥海高原を利用した体験活動を行うことで、自然に触れ合うことの素晴らしさ、酒田の自然の美しさを実感することができた。また、仲間やボランティアスタッフとのふれあいを通して、人とのかかわりの大切さを学ぶことができた。	
○少年の翼では、沖縄の小学生との交流を通して互いの地域を理解し合うことができた。さとうきび収穫体験や紅型染め体験等を通して日本国内の異なった地域の文化について理解を深めることができたと同時に、故郷である酒田のよさも再認識することができた。また、ひめゆりの塔や摩文仁の丘の見学等を通して、平和の尊さを感じることもできた。さらに、沖縄からの派遣団を受け入れて、酒田の文化や魅力に触れてもらうこともできている。	

点検結果・自己評価（課題・方向性）	
-------------------	--

評価	A	○ダイナミックな飛島の海、山の自然に触れることは子どもたちのたくましい成長につながる。島民とのふれあいも貴重な経験である。 ○鳥海の自然を体験し、自然の雄大にふれることができた。27年度は11校の実施予定であり、プログラムを見直し、さらに充実した活動にしていく。 ○少年の翼については、体験後の「報告会」と「記録集」によって、交流を通じた相互理解と友好が図られたかについて振り返る機会を持っている。アンケートによる満足度の把握と合わせて、児童の成長につなげたい。
----	---	---

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(2) 体験活動、交流活動の推進
担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標 ○目的 <ul style="list-style-type: none"> ・学校を超えた異年齢の子ども達の協同した体験活動を通して、心豊かな人間性と自立心を育み、仲間づくりとリーダーの育成を図る。 ・事業に参加した子どもたちの自主性と協調性を養い、それぞれの学校、地域、家庭において積極的に物事に取り組んでいける子どもを育む。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況 ○「冬あそびお泊り会」(生涯学習推進講座開催事業) 開催日 2月14日～15日(1泊2日) 会場/ひらた生涯学習センター 対象/小学校3～6年生児童 参加人数/小学生18人 募集方法/カモンくんこどもニュースに掲載し全児童に配布 内容/スノーランタンづくり、そりあそび・竹スキー、調理実習 雪上タグラグビー、調理実習 高校生ボランティア「かざみどり」の6名が生活や遊びをサポートしながら集団生活を実施した。また、社会教育指導員がタグラグビーを指導した。	
事業の効果 ○自然体験活動を通して、学校の枠を超えた初対面の子どもたちが次第に仲良くなっていく様子がみられた。 ○すべての食事で調理実習を行い、「生きる力」や自立した生活について学んだ。 ○集団での宿泊研修を通し、規律ある生活を経験することができた。 ○高校生ボランティアが児童をサポートし異年齢の交流が促進された。 ○高校生のボランティア育成に役立った。	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	B ○自然体験については、地域での活動、学校での活動の他に民間団体でも同様の活動が増えてきていることから、平成24年度事業の点検評価を受けチャレンジ冒険を休止した。 ○今年度は、高校生ボランティアをスタッフに加え、リーダー育成と異年齢交流を目的に体験活動を実施。新規事業であったが、参加者も多く集まりニーズはあることは確認できた。講座の満足度も89%と高く、課題を整理しながら、引き続き自然体験活動の実施について検証する必要がある。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(3) 相談支援体制の充実
担当部署	学校教育課

施策の目的及び目標																				
○目的 ・いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。																				
○目標																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">不登校児童生徒の割合</td> <td>小</td> <td>0.17%</td> <td>0.19%</td> <td>0.29%</td> <td>0.30%</td> <td>0.1%未満</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>1.96%</td> <td>2.26%</td> <td>2.73%</td> <td>1.76%</td> <td>1.3%未満</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	H25	H26	H31	不登校児童生徒の割合	小	0.17%	0.19%	0.29%	0.30%	0.1%未満	中	1.96%	2.26%	2.73%	1.76%	1.3%未満
	H23	H24	H25	H26	H31															
不登校児童生徒の割合	小	0.17%	0.19%	0.29%	0.30%	0.1%未満														
	中	1.96%	2.26%	2.73%	1.76%	1.3%未満														

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○教育相談充実事業【予算現額7,871千円】【決算額7,247千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室での来室・電話相談の実施（平成26年度207件（新規74件）平成25年度257件（新規97件））不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。 ・教育相談研修講座を3回実施、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施した。 <p>○適応指導教室（ふれあい教室）維持事業【予算現額800千円】【決算額707千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒の集団適応能力を育成し学校への復帰を目指すような支援を行った。（小学生2名、中学生6名通級） <p>○スクールカウンセラー等活用事業【予算現額10,810千円】【決算額9,030千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー（SC）8名と教育相談員7名を各中学校に配置するとともに、3名の家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。 	

事業の効果	
<p>○不登校児童生徒数は小学校で横ばい(16名で前年と同数)、中学校で減少（52名で前年比21名減）している。各学校の教育相談委員会等の組織を活かして相談活動を行ったり、スクールカウンセラーや相談員等との連携が進み、組織的な対応ができるようになった成果ととらえている。</p> <p>○本市の教育相談課題に対応した各種研修会を実施することで、教員の日々の指導に生かしてもらうことができた。</p> <p>○適応指導教室（ふれあい教室）での体験活動を通じ、他の通級生や体験活動の講師の先生方と安心して関わるできるようになり、自信を取り戻せた例も多くある。不定期ではあるものの、8名の児童生徒が学校に登校できた。</p> <p>○ケース検討会等、必要に応じて学校と検討会を設けたり、適切な人材を派遣をしたりすることができた。</p>	

点検結果・自己評価（課題・方向性）	
-------------------	--

評価	B	<p>○不登校生徒数が中学校で減少した。今後は事例をもとに迅速な対応ができるよう教職員の力量を高めていくと共に、未然防止にも全力をあげていきたい。</p> <p>○SCの通常の配置時数の他、小学校への対応や特別支援が必要な児童生徒への対応や医療や他課との連携も強化していく。</p> <p>○発達障がい起因する不登校も増加していることから、特別支援教育への理解を深めていくことが大切である。研修内容を充実させていきたい。</p>
----	---	--

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(4) 基礎的運動能力の向上
担当部署	学校教育課

施策の目的及び目標																					
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的運動能力向上のための指導内容の充実を図り、児童生徒が、運動の楽しさや喜びを体感しながら、基礎的な知識や技能を身につけることができるようにする。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校中学年の「走・跳・投の運動」を中心とした指導内容の充実を図り、基礎的運動能力の向上に向けた取組みを支援する。 <table border="1" data-bbox="271 638 1204 750"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校3年生の 50m走の平均</td> <td>男子</td> <td>10.40秒</td> <td>10.41秒</td> <td>10.66秒</td> <td>10.13秒</td> <td>10.17秒</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>10.55秒</td> <td>10.58秒</td> <td>10.49秒</td> <td>10.39秒</td> <td>10.45秒</td> </tr> </tbody> </table>				H23	H24	H25	H26	H31	小学校3年生の 50m走の平均	男子	10.40秒	10.41秒	10.66秒	10.13秒	10.17秒	女子	10.55秒	10.58秒	10.49秒	10.39秒	10.45秒
		H23	H24	H25	H26	H31															
小学校3年生の 50m走の平均	男子	10.40秒	10.41秒	10.66秒	10.13秒	10.17秒															
	女子	10.55秒	10.58秒	10.49秒	10.39秒	10.45秒															

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○陸上指導サポーター派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 希望のあった小学校13校に講師を派遣し、3、4年の児童を対象に、年間3回「走・跳・投」に関連する運動を実際に行うとともに、教員に指導内容を周知し指導にいかす。 井村久美子氏を外務講師にむかえ、8月7日に小学校高学年を対象とした陸上教室を行った。 <p>○小中学校スポーツ振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全小学校の参加による陸上競技記録会及び水泳競技記録会開催を支援した。 <p>○万歩計の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な運動に対する意識向上をめざし、万歩計を希望する学校に貸し出した。(245個) 	

事業の効果	
<p>○陸上指導サポーター派遣事業を通して、中学年担当教員に、3、4年生で経験させたい「走・跳・投に関連する運動例」について、児童への指導も踏まえ周知を進め指導に生かすことができた。</p> <p>○8月7日行われた陸上教室では、酒田市内の小学校高学年50名が井村氏より専門的な指導を受けることができた。子どもたちの意欲向上につながった。</p> <p>○陸上競技記録会や水泳競技記録会への参加を通して、記録への挑戦やチャレンジする意欲を高めるとともに、自己記録を目指し大会に向けて努力する気持ちを育成することができた。</p> <p>○万歩計を活用することで、日常的な運動に対する意識を高めることができた。</p>	

点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「陸上指導サポーター派遣事業」の実施により、小学校高学年で行う「陸上運動」につながる運動をすることができた。教員の指導力向上にもつながった。 ○井村氏より専門的な指導を受け、子どもたちの意欲が高まった。今後も外部講師を招聘し、陸上の短距離走の向上を目指した事業を実施していく。 ○万歩計の活用については、教科体育や体づくり運動に生かすなどして、日常的な運動への意識を高めていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(5) 健康教育の推進
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健やかでたくましい体を育む指導を通して、健康的な生活行動が実践できる態度や能力を身につけるための教育活動を推進する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の健康課題をとらえ、日常生活での具体的実践に結びつく保健学習の充実を図る。 ・ 自校の健康課題を家庭、地域の関係機関と共有し、解決のための取組みを推進する。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○年間指導計画に基づいた保健学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心身の健康の保持増進を目指す実践力の育成のため、年間計画に基づいた保健学習を適切に行うよう指導した。 <p>○学校保健委員会の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校保健委員会等を中心に、児童生徒の健康に関する生活習慣の実態調査等を行い、問題点の洗い出しや改善方策について検討するように指導した。 <p>○酒田飽海児童生徒保健研究発表会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童や生徒主体の取組みを発表し、お互いに見合うことで、健康に対する意識を高めたり、自校の取組みを振り返らせたりすることができた。 ・ 発表内容をDVDにまとめて各小・中学校に送付した。他校の取組みを知らせることで、自校の取組みに生かせるようにした。 	
事業の効果	
<p>○計画的な保健学習を行うことで、生涯にわたる健康の保持を意識することができた。</p> <p>○学校保健委員会やPTAの活動として、「早寝早起き朝ごはん」等の生活リズムを目的にした取組みが多く学校で行われるようになった。</p> <p>○校医とも連携し、うがい、手洗いの励行など、感染症予防の取組みやアレルギー対策の取組みが、多くの学校で行われた。</p> <p>○保健学習などにおいても、ゲストティーチャーを招聘して、より専門的な学習に取り組む学校もあった。</p> <p>○自校の健康課題についての取組みを児童生徒が主体的にまとめて発表する活動を通して、心身の健康の保持増進を目指す実践力を育てることにつながっている。</p> <p>○生活リズムやアウトメディアなど学校とPTAが連携した取組みも見られるようになってきた。</p> <p>○食物アレルギーの研修会を実施し、アレルギーのメカニズムや体調が悪くなった場合の対処方法等について、教職員から学んでもらうことができた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	B <p>○学校での取組みが広く行われており、日常生活での具体的な実践に結びつくように指導している。今後も、学校教育指導（経営訪問、計画訪問）を通して継続的に指導していき、健康教育の推進を図る。</p> <p>○酒田飽海学校保健会による「身体状況並びに学校保健活動状況一覧」を発行することにより、課題を共有し、解決のための取組みを推進する。</p> <p>○児童生徒保健研究発表会の成果や「生きる力を育む歯・口の健康づくり」に取り組んでいる学校の素晴らしい取組みを他の学校に広めることができた。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(6) 食育の推進
担当部署	管理課、学校教育課

施策の目的及び目標	
○目的	・児童生徒に食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせるとともに、自然の恵みや生産者への感謝の心をはぐくむ。
○目標	・地元産野菜を積極的に学校給食に取り入れるために、小中学校給食での地元産野菜の利用率の目標を50%以上とする。

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況

- 週5日、庄内産100%の米を利用した米飯学校給食を実施しているが、平成26年度は11月、及び1月に「つや姫給食」を実施した。
- 酒田の郷土料理や旬の食材を伝えるため、「食育の日献立」を実施した。(毎月19日)
- 栄養教諭等による巡回指導を実施した。(指導回数78回)
- 毎月「給食だより」を発行し、食材の情報提供を行った。
- 保護者に対し、栄養教諭等が食に関する講話(3回)を実施したり、「食育だより」を発行(10回)した。
- 酒田産米を100%使用した「米粉パン」給食を小学校19校で各1回実施した。
- 酒田産乳使用の「ヨーグルト」給食を10月、11月、2月に実施した。
- 「総称山形牛」を使用した給食を11月に実施した。
- 学校給食費を1食当たり、小学校260円、中学校305円に変更した。
- 地元産野菜の利用率

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	26年度 (目標)	31年度 (目標)	算出方法
小学校	38.7% (33.2%)	36.0% (31.9%)	37.2% (34.2%)	50%	50%	重量ベース による県内 産野菜の利 用率() 内は庄内産 の利用率
中学校	28.7% (26.6%)	28.1% (23.1%)	32.9% (28.2%)	40%	50%	

○地元産食材の利用率(参考)

	26年度	算出方法
小学校	75.0% (73.1%)	重量ベース による県内 産食材の利 用率() 内は庄内産 の利用率
中学校	72.9% (71.5%)	

事業の効果

- 米飯給食、食育の日献立等の実施を通して、酒田らしい給食を提供することができた。
- 栄養教諭等が食と健康についての巡回指導を行い、児童生徒の食に対する興味、理解を深めることができた。
- 講話や「食育だより」の発行により、家庭に対して食の大切さを伝えることができた。

点検結果・自己評価(課題・方向性)

評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食は、学びや運動の基礎となる健康づくりや給食ができるまでの社会の仕組みを教える等、生きた教材として活用されている。また、児童生徒への意識付けをし、家庭で実践をしてもらうため、栄養教諭等による子どもたちへの指導、保護者に対する食育指導にも取り組んでいる。これらの継続した取り組みが、将来自立した健康管理、食事管理ができる大人になることにつながるものと期待される。 ○地元産野菜の利用率については、情報収集をしながら、旬の地元産野菜の利用につなげているが、天候不順等により収穫時期がずれたり、入手できない野菜等があり、その年ごとの変動が大きくなる。26年度は「米粉パン給食」「ヨーグルト給食」など野菜以外の地元産食材を利用した給食を実施している。今後、農産加工品等も含め、幅広く地元産食材の利用拡大を進めていく。
----	---	---

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(7) 安全教育、安全対策の推進
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する知識や対応、行動の仕方について、具体的な場면을想定した実践的指導を推進する。 ・日常的な指導を工夫することにより、児童生徒が安全に関して主体的に判断し行動できる能力を高める。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○「非常災害対策と防止計画」の各学校での作成（昨年度に作成したものの見直し）と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時、地震及び津波発生時、不審者侵入時など、具体的な場면을想定した訓練の実施を行い、避難場所や経路など実施をふまえた改善を進めるよう指導した。 <p>○年間指導計画に基づいた交通安全教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期の初発指導や特別活動等の時間において、交通安全教室や安全な登下校についての指導が行われている。 <p>○通学路の安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに各校から提出されて通学路の危険箇所をもとに安全点検を行った。 <p>○安全な登下校に向けた「見守り隊」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員による学校訪問を通じて、登下校の様子や通学路の要注意箇所について情報交換を行った。 	
事業の効果	
<p>○「非常災害対策と防止計画」の策定と改善によって、実際のその状況における行動とを想定した訓練が行われるようになってきている。「児童向け行動マニュアル」と「教職員向け行動マニュアル」を相互に関連付けながら、様々なケースに対応した防災計画を立てている学校が増えている。</p> <p>○津波や土砂崩れといった各校が設置されている場所の特性に応じた避難の在り方が見直されている。保護者への引き渡し訓練、保育園やコミュニティセンターとの合同訓練等、家庭や地域と連携した取り組みが見られる。</p> <p>○年度始めの「通学路の安全点検」と、「学区安全マップ」による経年の点検箇所を照らし合わせながら、危険地点の洗い出しとその対応を行うことができた。</p> <p>○各校における「見守り隊との対面式及びお礼の会」や「こども110番連絡所」の設定箇所確認を通して、登下校時に危険を感じたときや困ったとき、頼れる人や場所がすぐ思い浮かぶような体制づくりが整ってきた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「非常災害対策と防止計画」に基づき、ほぼ全校で火災・地震・不審者の各ケースを想定した避難訓練を、平均年5回（計）実施している。 ○「自分の命を自分で守る」意識を高める取り組みが少しずつ広がってきている。児童生徒の危機回避能力の育成に向けて、小学校では各種訓練の中に「自分で考える場面」を設定している学校があり、中学校では生徒との協働で安全マップを作成している学校がある。 ○海の事故防止のため、主に中学生を対象に「離岸流」の危険性について学ぶ機会を設ける必要がある。 ○「見守り隊」による活動は、交通安全に加え、地域の防犯や犯罪抑制の面でも有効であり、声かけ事案や不審者情報などの注意喚起（メールやFAX）は減少している。今後も地域・学校・警察との連携を進める。 ○改正道路交通法にあわせ、自転車使用について違反者、加害者にならない指導を各校で丁寧に繰り返すことを確認していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ II 世代を超えてまなびあう
基本施策	I-3 家庭、学校、地域との連携 II-6 生涯学習の充実
施策	I-3-(1) 青少年の健全育成 I-3-(3) 地域教育力の向上 II-6-(4) 地域活動の活性化
担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標 ○目的 ・子どもたちが社会の変化を生き抜いていくための力を身につけるため、家庭・学校・地域がそれぞれの教育力を生かしながら相互の連携を深め、青少年の健全育成を図る。 ・青少年の健やかな成長を促すために「地域との関わり」を推進することで、将来の地域のリーダー育成、活気あるまちづくりにつなげ、地域の教育力向上を図る。 ○目標 ・学校(PTA)と地域が協同して行う学習機会の充実を図る。 ・地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を通して、地域全体で取り組む体制づくりと地域の人材育成を推進し地域教育力の向上を図る。 ・青少年のボランティア活動を推進し、中高生の地域活動への促進を図り、地域のリーダー育成につなげる。	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況 ○地域人材交流講座(生涯学習推進講座開催事業)【予算現額750千円】【決算額666千円】 ・「地域の先生」との交流をとおり、小、中学生に伝統文化や農作業、ものづくりの指導をしていただいた。地域に根ざした方との異世代交流で郷土のありがたみや故郷を愛する心を育んだ。 実施回数と人数：小学校280回、4,989人、中学校53回、1,258人、合計333回、6,247人 (前年度実績：小学校250回、4,617人、中学校47回、1,492人、合計297回、6,079人) ○地域の教育力向上事業【予算現額7,500千円】【決算額6,656千円】 ・地域の人と地域の子どもが交流する機会をつくり、地域全体で「地域の子」「社会の子」を育んだ。(実施団体25団体、延べ事業数132事業、延べ参加人数12,679人) ○高校生ボランティア(かざみどり)が巨大迷路の運営プランに参画し、市内の高校ボランティア部と協力しながら当日までの準備と運営をおこない、9日間で延べ2,531人の方が入場した。	
事業の効果 ○地域人材交流講座では地域人材の活用が図られ、生徒の学びが広がった。さらに地域の指導者の方々は教える喜びや生きがいを見出している。 ○地域教育力向上事業では地域の人たちとのふれあい交流や体験(地域に伝わる伝統芸能・文化体験等)を継続して行うことで、社会のルールや地域理解を深め、伝統芸能等の後継者の育成も図られている。 ○高校生ボランティア(かざみどり)が中央公民館主催事業「冬遊びお泊り会」に参加し、社会参画できたとともに、参加した小学生とのかかわりを通じ、異年齢間の交流が図られた。また、巨大迷路の運営を行ったことで、イベント企画に必要なことを学び、一緒に活動した仲間との交流も図られるなど青少年の人材育成につながった。	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価 A	○地域人材交流講座については、各校とも地域人材との連携が良好に保たれ、学校との関わりを推進する良い事業となっている。 ○コミュニティ振興会や学校に対して、積極的な事業展開が図られるよう訪問を実施した結果、事業の周知が図られ、相談を受ける機会が増加した。 ○市街地コミュニティ振興会との連携事業も引き続き訪問を実施し拡充していく。 ○企画力向上のため、地域の職員対象のスキルアップ講座を実施しているが参加率が低い。 ○各支所地域の中高生ボランティアとかざみどりが一体となって活動する機会を情報提供しているが、平成26年度は一緒に活動はできなかった。また、休止状態である八幡地区のボランティア団体について、中学校を訪問し加入促進を行った。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3 家庭、学校、地域との連携
施策	(2) 家庭教育の支援
担当部署	社会教育課

施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもは「社会の宝」として親と子の学校・地域のつながりを作る取り組みを推進するとともに、子どもの成長段階に応じた学習と親の学びを支援する学習の機会を提供し、切れ目のない家庭教育に関する学習機会を充実させることで、家庭の教育力向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 切れ目のない家庭教育支援の充実のため、庁内各課との事業連携・調整を図りながら学習機会の充実を図る。 	

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況

○生涯学習推進講座開催事業(家庭教育講座)

事業名	講座内容及び実施状況	実施回数	人数
みんなで遊ぼう「さんさん学級」(未就学児と保護者)	就園前の親子の触れ合いを推進するとともに、集団行動を学ぶ機会を提供した。いも掘り体験では地域の方々との交流も図った。(親子リトミック、陶芸、収穫体験、エアロビクス、クリスマス会)	6回	122
親子ですくすく出前講座(保育園・幼稚園児と保護者)	親子体験・幼児体験(ネイチャー、リトミック、陶芸、ダンス、積木)を通し親子でのふれあい、遊びを通した人間形成の基礎を培った。	26園	1,300
地域家庭教育講座(小中学校児童と保護者)	学校と連携し、家庭教育に係る講演会等(読み聞かせ・生活習慣・親の心構えと関わり方、親子レク等)実施した。	17校実施 19回	840
赤ちゃん登校日(小6・中学生)	乳児と母親とのふれあいを通して、家族の愛情に育まれ成長してきたことの喜びを感じてもらうことで、自己肯定感と生命の大切さを実感してもらい、将来親になることについて学ぶ機会の提供を行う。	3校実施 7回	195
勝ち飯でパワーアップ講座(新)	子どもの心と体を育むための食の大切さを学んだ。	1回	15
親育ちステップ講座(新)	子どもの健やかな成長を促すための、親の育ちを応援。	1回	14
市民企画講座「ブレママららら♪」(新)	ストレス社会の中での出産、子育てする女性たちを支援。また、童謡を歌いながらその大きさに気付く。	2回	13
もっと仲良くなろう「パパと一緒に」	父親の育児参加を支援し、親としての成長を促す。(フットサル・自然体験・陶芸教室)	3回	68
かんたん!かわいい!デコ弁つくっちゃお♪	デコ弁作りを通して、食の大切さを学ぶとともに、親子の絆を深めた。	1回	24
安心・安全 上手なスマホのつきあい方講座(新)	情報ネットワークを正しく利用できる能力(ネットテラシー)を身につけ、上手なインターネットとスマホとのつきあい方を学んだ。	1回	34
家庭教育講演会	まちづくり推進課、子育て支援課、社会教育課の3課連携による家庭教育・子育て支援に関する講演会を開催。講師 尾木直樹氏 演題「子どもも大人も居心地の良い家庭を目指して」	1回	650

・家庭教育講座 11講座 68回実施、延べ参加者3,275人(参考：平成25年度 12講座 83回実施、延べ参加者4,397人)

事業の効果

- 保育園・幼稚園・学校での実施は保護者がより参加者しやすいため効果的な実施場所である。今後も継続した実施が望まれる。
- 将来親になる小学6年生と中学生を対象にした事業(赤ちゃん登校日)は、親の愛を再認識することで命を大切にする心を育み、さらに将来親になることについて考えるきっかけとなった。
- 携帯型端末が普及するなか、インターネット等の危険性を家族で考える機会を提供できた。
- 子どもの成長段階に応じた切れ目のない学習機会の提供ができた。

点検結果・自己評価(課題・方向性)

評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校へ個別に訪問し事業説明を実施したことで事業を詳しく理解してもらえた。 ○家庭教育支援はすぐには事業効果が現れないため、継続した取り組みが必要である。 ○ネットリテラシーを身につける必要性が高まっており、継続的に取り組むべきテーマ。
----	---	--

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3 家庭、学校、地域との連携
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の職業観の涵養や地域の理解、専門的な分野の体験のため地域の産業界や高等教育機関との連携を推進する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の職場体験学習（インターンシップ）の充実を図り、キャリア教育を推進する。 ・中村ものづくり事業の活動を通して、地域の高等教育機関、産業界との連携を推進する。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○中学生職場体験学習推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験は8中学校において、2日間実施が2校、3日間実施が6校であった。 ・体験先の主な職種として幼稚園・保育園、福祉施設、スーパーの販売業、製造業などがある。 <p>○中村ものづくり事業における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジものづくり塾の講師として、酒田光陵高等学校、県立産業技術短期大学校、鶴岡工業高等専門学校からの協力を得て、チャレンジものづくり塾、サイエンス発明教室等を実施した。 ・地元の企業への職場訪問を通して、専門的なものづくりの現場を体験することができた。 <p>○東北公益文科大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンター、不登校保護者会の講師やものづくり事業の運営委員として助言をもらったり、学生ボランティア等の協力をいただいたりした。 	
事業の効果	
<p>○中学生職場体験学習においては、市内全中学校で2日間以上の職場体験学習を実施し、職業観の涵養とともに、実際に働くことの大変さや職場の方々との交流も図ることができた。</p> <p>○ものづくり事業においては、年間8回の「ものづくり塾」の他、「ものづくり科学教室」においては、酒田光陵高等学校の生徒からもボランティアスタッフとして参加してもらい、参加児童生徒にとっても、キャリア教育の良い機会となっている。</p> <p>○東北公益文科大学の先生方から、専門的な助言をもらい、事業に生かすことができた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生職場体験学習推進事業は、社会人としての厳しさを学ぶ大切な機会であり、精神的な成長にもつながっている。今後も継続していく。 ○ものづくり事業は、ものをつくる喜びを多くの子どもたちに実感させることができた。地域の産業界及び高等教育機関との連携も構築されてきており、今後も継続していく。 ○東北公益文科大学をはじめとした高等教育機関との連携を一層工夫し、児童生徒にとってより専門的で、かつ幅広い事業の展開につなげていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3 家庭、学校、地域との連携
施策	(5) 青少年指導活動の推進
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う青少年が地域や社会の一員として主体的に未来を切り拓いていく資質を身につけ、その能力を発揮できるよう、青少年指導センターが中心となり青少年の健全育成を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心豊かでたくましい青少年の育成と非行の未然防止に努める。 ・小・中・高等学校の生活指導・生徒指導担当者、警察等関係機関と連携を図りながら、幅広い活動を展開する。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○街頭巡回指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間街頭指導、夜間街頭指導、特別街頭指導、広域列車乗車指導等を指導委員総勢246名で行った。 <p>○相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非行防止と問題行動の未然防止等、電話及び直接相談を行った。 <p>○環境浄化・広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く有害な環境を排除していくための活動を行った。 <p>○親子ふれあいレクリエーション大会の実施など、子ども達の健全育成に関する事業を行った。</p>	
事業の効果	
<p>○民生委員・児童委員協議会連合会、保護司会、更生保護女性会、警友会、少年補導員連絡会、青少年育成推進員連絡協議会、各小学校・中学校・高等学校より推薦いただいた指導委員246名の方々から協力をいただき、酒田市全域を通年にわたり、児童生徒への声かけを含む総合的な街頭指導を実施することができた。</p> <p>(指導した少年の延べ人数 H26年度：356名、H25年度：299名)</p> <p>○青少年育成推進員の方々も、地域の見守り隊と一緒に、児童生徒の見守り活動を行うことができた。</p> <p>○今年度の相談件数は昨年度に比べ減少した。相談の内容については、児童・生徒では問題行動や進路の問題に関する事。引きこもりや家庭内での問題、若者に対する相談、地域で青少年を見守っている方々からの指導の難しさの相談など、相談者の年齢も幅広く、内容も多岐にわたっている。(相談延べ件数 H26年度15件、H25年度31件)</p> <p>○有害図書類玩具自動販売機の青少年の利用がないように、見回りによる点検活動を行った。有害図書自動販売機の設置状況として、平成22年度まで4か所だったのが、平成23年度以降2か所に減っている。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <p>○今年度は、小・中・高等学校の振替休日に街頭指導が多くなるように計画して行った。休日の中学生、高校生の行動（カラオケ・ゲームセンターの利用等）には課題がある。これまで以上に関係機関との連携、情報交換を密にしていくことで、非行の未然防止に努めていく。</p> <p>○巡回時には問題行動は見られなかったが、市内では青少年による「万引き」「自転車盗」などの問題や「不審者」による声かけ事案も発生している。今後も関係機関と連携しながら街頭指導活動を充実させていく。</p> <p>○「ネット上のいじめ」に対する取り組みとしてネット巡視活動を実施した。数件だが、削除依頼をして対応した。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4 教育環境の整備
施策	(1) 学校施設の整備
担当部署	管理課

施策の目的及び目標					
○目的 ・旧耐震基準により設計された施設の耐震性能を高めるため、計画的に耐震診断を行い、必要に応じて改修及び改築を行うことにより、学校施設の耐震化を推進し、安全で安心な施設整備を図る。					
○目標 ・酒田市の耐震化計画に基づき、平成31年度を目標に事情のあるもの以外の耐震化を図り、学校の良い教育環境整備を目指す。					
学校施設の耐震化進捗状況					
項目	24年度	25年度	26年度	26年度 (目標)	31年度 (目標)
小学校	82.1%	92.5%	93.6%	85.0%	100.0%
中学校	82.3%	93.9%	100.0%	90.0%	100.0%

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況					
〔耐震関係事業〕					
○泉小学校改修事業【前年度繰越額238,894千円】【決算額217,007千円】 <ul style="list-style-type: none"> 校舎改修2期工事（老朽改修、トイレ改修）、体育館改修工事（耐震補強、老朽改修、トイレ改修）を行った。 					
〔その他の改修事業〕					
○富士見小学校改修事業【予算現額217,443千円】【前年度繰越額214,753千円】 【決算額196,898千円】 <ul style="list-style-type: none"> 校舎改修2期工事（老朽改修、トイレ改修）を行った。 グラウンド改修工事の設計業務委託を行った。 					
○若浜小学校改修事業【前年度繰越額27,699千円】【決算額23,393千円】 <ul style="list-style-type: none"> グラウンド改修工事を行った。 					
○亀ヶ崎小学校改築事業【予算現額63,570千円】【決算額28,178千円】【繰越額35,392千円】 <ul style="list-style-type: none"> グラウンド改修工事、外構工事（駐車場整備）を行った。 グラウンド改修工事は平成27年度へ35,392千円繰越しした。 					
○飛鳥中学校改修事業【前年度繰越額61,138千円】【決算額59,117千円】 <ul style="list-style-type: none"> グラウンド改修工事を行った。 ※平成25年度予算は旧校名で事業名称としております。					
○東部中学校改修事業【予算現額146,052千円】【決算額142,290千円】 <ul style="list-style-type: none"> 既存体育館解体、外構整備、物置整備工事を行った。 					
○学校下水道切替事業【予算現額12,199千円】【決算額12,199千円】 <ul style="list-style-type: none"> 宮野浦小学校の下水道への切替工事を行った。 					

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	4 教育環境の整備	
施策	(1) 学校施設の整備	
担当部署	管理課	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況		
<p>○学校グラウンド改修事業（小学校）【予算現額6,521千円】【決算額5,290千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド整備のためスポーツトラックを購入し、黒森小学校、八幡小学校グラウンドの整備を行った。 <p>○学校グラウンド改修事業（中学校）【予算現額1,544千円】【決算額966千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第六中学校のグラウンド整備を行った。 <p>○鳥海八幡中学校改修事業【予算現額7,111千円】【決算額6,961千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武道場の設計業務委託を行った。 <p>○施設整備事業（小学校）【予算現額25,049千円】【決算額25,014千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校施設の改修を年次計画等に基づき行った。 <p>(改修内容)</p> <p>プール塗装（泉小学校）、プールろ過装置交換（松陵小学校） 防火シャッター改修（南遊佐小学校）、自動火災報知設備改修（宮野浦小学校） FFストーブ改修（八幡小学校）、体育館屋根破風修繕（南平田小学校）</p> <p>○施設整備事業（中学校）【予算現額18,465千円】【決算額18,465千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校施設の改修を年次計画等に基づき行った。 <p>(改修内容)</p> <p>体育館屋根修繕（第六中学校）、放送設備改修（第三中学校） 自動火災報知設備更新（第四中学校、第六中学校）、FFストーブ改修（第三中学校）</p>		
事業の効果		
<p>耐震診断に基づき、改修・改築の計画を策定しながら、工事の進捗を図り、学校施設の耐震化を推進することができた。</p>		
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	A	<p>○児童生徒の安全確保と災害時の地域の避難所としての機能確保のため、今後も学校耐震化を積極的に推進する必要がある。</p> <p>○学校施設・設備の老朽化改善のため、状態の確認、改修、更新を年次的に進め、施設・設備の長寿命化を図り、安全な教育環境の整備に取り組んでいく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4 教育環境の整備
施策	(2) 学校規模の適正化の推進
担当部署	管理課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、児童及び生徒の教育の機会均等と維持向上を図るため、学校規模の適正化を進め、教育環境の整備を図る。 <p>○目標</p> <p>酒田市立小・中学校の学校規模に関する基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校規模に関する基本的な考え <ol style="list-style-type: none"> 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。 複式学級の解消に努める。 過大規模校は（31学級以上）は設置しない。 当面存続する規模 <p>当面存続する学校規模及び学級規模の指針として、次のように設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 小学校 <ol style="list-style-type: none"> ①学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模 中学校 <ol style="list-style-type: none"> ①学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模 配慮事項 <p>学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。</p> <p>○「学校規模に関する基本方針」に基づき、統合を実施した学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀城小学校、港南小学校（平成26年4月統合） ・松山中学校、飛鳥中学校（平成26年4月統合） 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学区改編推進事業【予算現額555千円】【決算額416千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の適正規模及び適正配置について審議する学区改編審議会を開催した。 ・松山地域3小学校（地見興屋小学校、松山小学校、内郷小学校）の統合に関する懇談会を開催し、地域や保護者の方々に教育委員会の考えを示すとともに意見交換を行った。 ・適正規模等に課題のある学区において地域や保護者の方々との懇談会を開催し、課題等の共有を図った。 ・「教育委員会からのお知らせ」を発行し、地域や保護者の方々に統合に関する意見交換等の状況についての周知を図った。 <p>○学校統合事業【予算現額198千円】【決算額184千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀ヶ崎小学校及び東部中学校の開校式を開催した。 	
事業の成果	
<p>○松山地域3小学校の統合に関する懇談会や地域説明会を開催し、地域や保護者の方々と意見交換を行ったことにより、統合に関する理解が深まった。</p> <p>○鳥海小学区や南遊佐小学区において懇談会を開催し、地域や保護者の方々と意見交換を行ったことにより、鳥海小学校と南遊佐小学校の統合に関する理解が深まった。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	B <p>○地域や保護者の方々の統合に関する理解が深まったことにより、学校規模の適正化に向けた取り組みを進めていく環境が整った。</p> <p>○松山地域3小学校の統合については、事業の執行にあたっては、より丁寧な説明を求められている。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4 教育環境の整備
施策	(3) 通学の安全確保
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標 ○目的 ・児童生徒の通学の安全を確保するために、地域学校安全指導員の活動など、学校と地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。 ○目標 ・地域学校安全指導員や各学校の見守り隊及び関係機関との連携を図ることで、児童生徒が安全安心に登下校できるようにする。	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況 ○子どもの安全安心通学対策事業【予算現額2,099千円】【決算額2,016千円】 ・地域学校安全指導員5名及び各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。 ・青色回転灯を装備した車両による防犯パトロールについては、警察より証明を受けた巡回協力者と学校教職員からなる22名が、市教委による回転灯の貸与・パトロール車表示用ステッカー貸与のもとで実施した。 ○遠距離通学対策【予算現額56,144千円】【決算額53,019千円】 ・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、借上等バス対応は約60日、定期券対応は約3か月分の経費の負担を行った。 ○スクールバスの運行 ・通年は、小学校概ね4km、中学校が概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。	
事業の効果 ○学校と関係機関相互の情報交換や酒田警察署と連携した活動を行うことができた。 ○青色回転灯を装備してのパトロールが定着することで、安全安心な通学に寄与している。 ○遠距離通学対策事業、スクールバス運行とも市の基準に照らしながら対応し、児童生徒の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。 ○通学路の安全点検については、個別での対応・各機関合同での対応を行い、改善すべき箇所について児童生徒の安全な登下校に向けて対策を講じることができた。	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	A ○見守り隊や地域学校安全指導員との情報交換と協力連携を通して、パトロール実施者の増員を今後とも呼びかけていく。 ○児童生徒の通学路の安全確保については、学校や関係機関等と連携して合同点検等を行い改善すべき箇所について早期に対応していくことで、通学路の安全確保に今後も努めていく。 ○年度当初にメール配信システムの登録を呼びかけているが、登録の仕方を分かりやすくするための広報活動を引き続き実施していく。平成26年度までは不審者に関する情報中心であったが、平成27年度からは、交通安全上の注意喚起についても配信していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	4 教育環境の整備	
施策	(4) 学習バスの運行	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標		
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市で保有する学習バスを積極的に活用し、小中学校の社会体験活動や自然体験活動などの、校外での学習活動を支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各学校等で行われる学習活動への積極的な支援を図るとともに、児童・生徒への安全に配慮した運行を行う。 		
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況		
<p>○学習バス・スクールバス管理事業【予算現額118,098千円】【決算額114,133千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市保有の2台の学習バス及びスクールバス（登下校時間帯を除く）により、市内小中学校の校外学習を実施している。 <p>○学習バスとして年間延べ1,136回運行した。 （平成25年度963回、平成24年度883回、平成23年度678回）</p>		
事業の効果		
<p>○校外での直接の見聞による体験的活動をとおり、学習への関心・意欲等の高揚が図られた。</p> <p>○市が保有する学習バスの活用により、学習エリアの広域化が図られた。</p>		
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	A	<p>○年々増加傾向にある学習バスの利用について、校外学習のねらいを検討し、学習バスの活用が妥当であるかどうかを見極める必要がある。</p> <p>○学習バスを利用する際の、児童・生徒へのバス乗車マナーや交通安全意識の啓発も必要である。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	4 教育環境の整備					
施策	(5) 学校ICT環境の整備充実					
担当部署	学校教育課					
施策の目的及び目標						
○目的						
・時代に対応したICT環境としていくために、教育用コンピュータ及び校務用コンピュータ等のICT機器の保守及び更新を定期的に進めるとともに、適正な運用を図る。						
○目標						
		H23	H24	H25	H26	H31
授業でICT機器を活用できる教員の割合	小	69%	74%	83%	87%	100%
	中	60%	61%	55%	76%	100%
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況						
○デジタルキャンパスネットワーク【予算現額62,390千円】【決算額61,517千円】						
・小学校696台、中学校295台の教育用コンピュータを賃貸借契約により整備しており、平成26年度は、84台更新した。						
・校務用コンピュータのサポート、サーバの保守を実施した。						
・校務用グループウェアの研修会を実施した。						
・市教研視聴覚部会は、デジタル機器、コンピューターを効果的に活用する具体的方法を学ぶ授業研究会を実施している。						
・情報教育担当者会、市教研視聴覚部会において、情報モラル教育及びICTを活用した授業について研修会を実施した。						
事業の効果						
○パソコンの操作や授業においてICT機器を活用することを通して、情報化社会に生きる児童生徒に情報活用能力を育てることができた。						
○校務用グループウェアの使い方の研修会を通して、教育情報のデータベースを職員間で共有できるようになり、校務の効率化につながっている。						
○授業においてデジタルテレビを活用したり、ICT機器を活用した授業を工夫することにより、児童生徒の学習意欲を高めることができてきた。						
○平成26年度末、授業でICT機器を活用できる教員の割合は、小学校87%、中学校76%であり、小・中学校とも日常的にICT機器を活用した授業が行われるようになった。						
点検結果・自己評価（課題・方向性）						
評価	B	○教育用コンピュータは、今後も児童生徒の情報活用能力の育成の為、定期的に更新しながら、賃貸借契約による整備を継続していく必要がある。 ○校務用コンピュータは、平成22年度に一括導入した経緯も踏まえ、今後、実施計画により新しい機種に随時、更新していく必要がある。 ○グループウェアをより効果的に活用するために、研修会の開催を継続し、校務の効率化を図っていく。 ○授業でICT機器を活用できる教員の割合が小・中学校とも増加しており、教科の特質に応じたICT機器活用方法について、更に研修を深めていく。				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																																																																									
基本施策	4 教育環境の整備																																																																									
施策	(6) 教育の機会均等																																																																									
担当部署	管理課																																																																									
施策の目的及び目標																																																																										
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済状況にかかわらず、高等学校や高等教育機関での修学が確保されるよう市独自の制度により経済的支援を行うことで子どもたちの教育を受ける権利の保障に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国、県など他の支援制度とのバランスを考慮しながら本市の支援制度を検討、維持し、経済情勢の変動に関わらず支援制度が広く市民に周知され、必要な市民が利用できるようにする。 																																																																										
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況																																																																										
<p>○京野基金大学修学奨励事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所得等の少ない世帯で、4年制国立大学法人立及び公立大学等に進学する本市出身の学生の保護者に対し入学時の支援として学生1人につき30万円を給付 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交付件数</td> <td>3件</td> <td>6件</td> <td>4件</td> <td>【周知実績】</td> </tr> <tr> <td>交付額</td> <td>900,000円</td> <td>1,800,000円</td> <td>1,200,000円</td> <td>市内高等学校7校に配布</td> </tr> </tbody> </table> <p>○大学等修学支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市出身の学生に対する修学に係る経済的支援を図るため教育ローンの利子補給金を交付 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規交付件数</td> <td>24件</td> <td>27件</td> <td>19件</td> <td>【周知実績】</td> </tr> <tr> <td>継続交付件数</td> <td>48件</td> <td>44件</td> <td>43件</td> <td>市内高等学校、大学、金融機関など23機関に配布</td> </tr> <tr> <td>交付件数 計</td> <td>72件</td> <td>71件</td> <td>62件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交付額</td> <td>2,488,083円</td> <td>2,621,869円</td> <td>2,318,653円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○私立高等学校生徒授業料軽減事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立高等学校に在籍している生徒の授業料等にかかる諸経費の負担軽減を図るため、所得の少ない世帯の保護者に対し補助金を交付 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活保護世帯</td> <td>6件</td> <td>4件</td> <td>2件</td> <td>【周知実績】</td> </tr> <tr> <td>市民税非課税世帯</td> <td>64件</td> <td>68件</td> <td>68件</td> <td>県内各私立高等学校に配布</td> </tr> <tr> <td>均等割額のみ課税世帯</td> <td>37件</td> <td>40件</td> <td>43件</td> <td>(市内3校、市外13校)</td> </tr> <tr> <td>交付件数 計</td> <td>107件</td> <td>112件</td> <td>113件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交付額</td> <td>3,996,000円</td> <td>4,128,000円</td> <td>4,116,000円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考	交付件数	3件	6件	4件	【周知実績】	交付額	900,000円	1,800,000円	1,200,000円	市内高等学校7校に配布	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考	新規交付件数	24件	27件	19件	【周知実績】	継続交付件数	48件	44件	43件	市内高等学校、大学、金融機関など23機関に配布	交付件数 計	72件	71件	62件		交付額	2,488,083円	2,621,869円	2,318,653円		区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考	生活保護世帯	6件	4件	2件	【周知実績】	市民税非課税世帯	64件	68件	68件	県内各私立高等学校に配布	均等割額のみ課税世帯	37件	40件	43件	(市内3校、市外13校)	交付件数 計	107件	112件	113件		交付額	3,996,000円	4,128,000円	4,116,000円	
区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考																																																																						
交付件数	3件	6件	4件	【周知実績】																																																																						
交付額	900,000円	1,800,000円	1,200,000円	市内高等学校7校に配布																																																																						
区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考																																																																						
新規交付件数	24件	27件	19件	【周知実績】																																																																						
継続交付件数	48件	44件	43件	市内高等学校、大学、金融機関など23機関に配布																																																																						
交付件数 計	72件	71件	62件																																																																							
交付額	2,488,083円	2,621,869円	2,318,653円																																																																							
区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考																																																																						
生活保護世帯	6件	4件	2件	【周知実績】																																																																						
市民税非課税世帯	64件	68件	68件	県内各私立高等学校に配布																																																																						
均等割額のみ課税世帯	37件	40件	43件	(市内3校、市外13校)																																																																						
交付件数 計	107件	112件	113件																																																																							
交付額	3,996,000円	4,128,000円	4,116,000円																																																																							
事業の効果																																																																										
<p>各事業ともに学校や関係機関に対して、制度をわかりやすくまとめたパンフレット、チラシ等を配布するとともに、市のホームページや広報、ハーバーラジオなどを活用し、本支援制度を必要とする市民に広く制度の周知を図った。交付件数については、前年度と比較し減少はしているが、本支援制度を必要とする市民の教育の機会の確保は果たされたものとする。</p>																																																																										
点検結果・自己評価（課題・方向性）																																																																										
今後の方向性	継続	<p>○周知についてはある程度実施出来ており、制度自体は一定の役割を果たしていると評価する。</p> <p>○教育を受ける機会を確保するため、国や県の類似する制度及び民間の修学支援事業等との関連を随時確認しながら、今後も制度改正及び周知方法について状況に応じて対応していく。</p>																																																																								

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4 教育環境の整備
施策	(7) 私立学校等の振興
担当部署	管理課

施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の教育理念のもと、本市の教育振興に貢献している私立高等学校の健全な運営に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済状況及び人口減少などの状況と補助内容を考慮しながら、子どもたちが教育を受ける機会の均等化を図るため補助金を交付する。
-----------	---

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況

○私学振興補助事業

- ・本市に住所を有する私立高等学校の健全な運営に資するため、私立高等学校を設置する学校法人に対し、酒田市私立高等学校運営費補助金を交付

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
酒田南高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円
天真学園高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円
和順館高等学校運営費補助金	350,000円	350,000円	350,000円
交付額 計	3,150,000円	3,150,000円	3,150,000円

事業の効果

本市の教育振興等に貢献している私立高等学校の健全な運営のために補助金を交付している。平成26年度においては、16～18歳人口の増加に連動する形で私立高等学校の生徒数も増加している。市内の高校生人数に占める私立高校生徒数の割合は2割を超えており、私立高等学校は本市の教育において大きな役割を担っていると言える。

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
公立高等学校生徒数…A	2,425人 (100.0)	2,438人 (100.5)	2,433人 (100.3)
私立高等学校生徒数…B	770人 (100.0)	710人 (92.2)	756人 (98.2)
市内高等学校生徒数…C = A + B	3,195人 (100.0)	3,148人 (98.5)	3,189人 (99.8)
私立高等学校生徒数率…B / C	24.1% (100.0)	22.6% (93.6)	23.7% (98.4)
市内16～18歳人口	3,047人 (100.0)	2,966人 (97.3)	2,974人 (97.6)
私立高校教員数	74人 (100.0)	74人 (100.0)	77人 (104.1)

※カッコ内は平成24年度の各数値を100として比較したもの
 ※生徒数及び教員数は各年度5月1日現在の数値から算定（市勢要覧より）
 ※16～18歳人口は各年度3月末日の数値から算定（住民基本台帳より）

点検結果・自己評価（課題・方向性）

今後の方向性	継続	<p>○私立高等学校は独自の教育理念のもと本市の教育振興等に貢献しており、また、教育の機会均等及び本市の子どもたちの教育を受ける権利の保障の一助として欠かせない存在となっている。本市にある私立高等学校の健全な運営のための支援策としての補助金交付は妥当なものである。</p> <p>○本市においても、今後とも少子化が進んでいく状況にあるが、本市の子どもたちの教育を受ける機会の均等化において欠かせない役割を担う私立高等学校の健全な運営のために、県の補助制度を踏まえながら引き続き支援を行っていく。</p>
--------	----	---

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	(1) 教職員研修等の充実
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上のための研修活動、教員評価を実施する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校研究に沿った授業研究会への指導主事派遣を充実さて、指導力の向上を図る。 ・各種研修会及び各校での授業研究会を通し、教職員としての資質向上を図る。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○初任者研修、教職10年経験者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の初任者研修として「学級づくり研修」「市内教育施設の訪問」等を実施した。(該当者5名) ・市の教職10年経験者研修は、5月に全体研修「服務研修」「いじめ対応」を、テーマに実施した。7・8月に「知見を広める体験研修」として、企業や福祉施設等における体験的研修を実施した。(該当者6名) <p>○各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導力向上のための研修 理科教育センター事業として研修会を4回開催(延べ45名参加) 市教育研究所の各部会で教科指導等の研修会を合計35回開催 ・児童生徒理解のための研修 教育相談研修講座を3回開催(延べ429名参加) 教育相談担当者を対象とした実践力を育成する研修会を3回開催 ・特別支援教育のための研修 特別支援教育研修会を2回開催(延べ208名参加) <p>○教職員評価の試行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が自己目標を設定し、個人や組織としての工夫を図り、資質の向上に努めた。 	
事業の効果	
<p>○初任者研修では、教員としての自覚を高め、責任の重さに気付くとともに、市内教育施設の訪問を通して、関係機関との連携の大切さと学校教育の役割を再認識することができた。</p> <p>○教職10年経験者研修では、民間企業や福祉施設における体験的研修を通して、仕事の厳しさや働く喜び、社会に貢献することの大切さを実感することができた。</p> <p>○教科指導力向上のための研修会では、前年に続いて算数・数学において、文部科学省より調査官を招聘し授業改善に向けた実践的な研修を行うと共に、小中が連携した指導の在り方について研修を深めることができた。</p> <p>○教職員評価の実施により、自己目標の設定と達成に向けての取組みの中で、教員の学校経営参画意識を高めることにつながっている。</p>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○初任者研修では「ユニバーサルデザイン」、経験者研においては「いじめ防止」について研修し、教員としての資質の向上につながることができた。 ○教育相談研修講座において、特別支援、情報モラル、学級づくりをテーマに研修会を開催することにより、今日的な課題について研修できた。 ○算数・数学の学力向上研修会では、児童生徒の思考力を高める指導について研習を深めた。 ○教員の意欲を引き出す、教職員評価を実施できている。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	(2) 学校運営の公開と学校評価システムの推進
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼され開かれた学校づくりを進めるために、保護者や地域住民の学校運営への参画や教育活動等の評価システムの機能を充実させる。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と地域が一体となった地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進める。 ・より良い学校運営につなげる学校評価システムを推進していく。 	
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学校評議員会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関して第三者の意見を生かしていくために、全小中学校で学校評議員の委嘱を行った。どの学校も学校評議員会を開催し、学校の運営や教育活動について、具体的に意見をいただいている。 <p>○学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学校も自己評価、学校関係者評価を実施している。学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施、分析、改善するとともに、その結果を学校評議員に提示し学校関係者評価を行い、学校経営の改善につなげている。 ・評価項目を絞りこみ、学校の重点やよさ、課題について、PDCAのサイクルに基づいて実施する工夫がみられる。 	
事業の効果	
<p>○学校評議員会の開催により、学校の経営方針や教育活動のねらい・内容を説明し理解を得ることで、地域との協力体制づくりが進んでいる。</p> <p>○地域の方々に学校経営方針や授業・行事等の実践を公開することで、学校・家庭・地域の方々による学校運営や具体的な教育活動への理解が深まり、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>○アンケート結果をもとにした自己評価や学校関係者評価の実施により、地域の思いや願いが、学校経営に反映し児童生徒の学校生活の充実につながっている。</p> <p>○学校評価の結果を学校便り等で地域の方々や保護者にお知らせすることで、子どもたちの地域での様子やさまざまな情報を学校にいただけるようになってきた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人選にあたっては、地域の有識者や教育活動の支援者並びに保護者等から広く意見を集約し、経営の改善に生かせるよう配慮されてきた。 ○学校評議員にも学校評価のねらいや観点、評価の具体的な場面を示しながら、年間計画に基づいて計画的に、学校経営について意見を求めていくよう学校に働きかけていく。 ○学校経営の改善に生きる評価システムにしていくために、年度初めに、重点や学校課題（評価の観点や評価の場面）を具体的に保護者や地域の方々に示すように各校に指導していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ						
基本施策	5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進						
施策	(3) 特色ある学校づくりの推進						
担当部署	学校教育課						
施策の目的及び目標 ○目的 ・各学校において、地域社会や児童生徒の実態に応じた明るく楽しい元気な学校づくりを進め、自主的・自律的な学校運営が推進されるように支援する。 ○目標 ・各校が設定したテーマ及び観点に沿った評価（5段階）を行い、「4」以上の学校数を85%にする。							
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況 ○明るく楽しい元気な学校づくり支援事業【予算現額4,850千円】【決算額4,734千円】 1校あたり15万円を上限とする交付金（15万円28校、13万円5校）をもとに、各学校でテーマ及び具体的な教育活動を設定し実践した。 ○取り組んだ主な教育活動 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・地域連携、地域学習等の活動 22校</td> <td>・児童会、生徒会活動への支援 12校</td> </tr> <tr> <td>・児童生徒の感性を育てる活動 20校</td> <td>・学級経営、学習活動の推進 14校</td> </tr> <tr> <td>・学校美化、地域環境保全活動 11校</td> <td></td> </tr> </table>		・地域連携、地域学習等の活動 22校	・児童会、生徒会活動への支援 12校	・児童生徒の感性を育てる活動 20校	・学級経営、学習活動の推進 14校	・学校美化、地域環境保全活動 11校	
・地域連携、地域学習等の活動 22校	・児童会、生徒会活動への支援 12校						
・児童生徒の感性を育てる活動 20校	・学級経営、学習活動の推進 14校						
・学校美化、地域環境保全活動 11校							
事業の効果 ○成果については、各学校で設定した2～4項目の観点から、活動の観察やアンケート、学校内外の評価の結果を5段階で評価した。平均「4」以上の学校は、33校中31校で93.94%となった。（平成25年度88.57%） ○取り組む内容をテーマ化したことで、児童生徒が、より豊かな学校生活を送ることができた。 ○地域の人材や地域素材を生かした学習活動を通して、地域の人々とのふれあいを深め相手と協力し思いやる心、郷土を愛する心を育むことができた。 ○児童生徒一人ひとりの実態を把握し、よりよい人間関係を構築するとともに、学習に対する興味、関心を高めることができた。 ○花と緑の潤いのある学習環境づくりにより、植物を大切にしながら花の観察や学習に役立て、美しい学校環境を整える一助となった。							
点検結果・自己評価（課題・方向性）							
評価	A ○平成25年より「明るく楽しい元気な学校づくり支援事業」と名称を変更し、目指す学校像、児童生徒像の具現化に向けた教育活動の支援が図られた。 ○各学校で、前年度事業評価において達成度の低かった項目について原因を究明し改善点などを検討のうえ事業に取り組んだ結果、評価の向上が図られており、今後も継続した取り組みが必要である。 ○読書活動の充実を事業に据えた学校ではその自己評価は総じて高くない。学校のみならず、家庭とも連携した読書活動を推進していくことが必要かと思われる。						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	(4) 学校施設の地域開放の推進
担当部署	管理課

施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設を学校運営や安全管理に支障のない限りにおいて地域に開放し、学校が地域住民の生涯学習及び生涯スポーツ活動の一拠点として役割を担っていくことで、学校と地域の連携を深めていく。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全ての小中学校において、学校と地域との相互連携のもとに学校開放を実施する。 目標数値：実施率100%
-----------	--

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況

○学校開放実施率

		平成24年度	平成25年度	平成26年度
小学校	学校数	29校	27校	26校
	実施校数	29校	27校	26校
	実施率	100%	100%	100%
中学校	学校数	9校	9校	8校
	実施校数	9校	9校	8校
	実施率	100%	100%	100%

○平成26年度一校当たりの週平均稼働日数 単位：日／週

	小学校				中学校				全体
	市街地	旧公民館地区	総合支所管内		市街地	旧公民館地区	総合支所管内		
体育館	4.7	6.0	4.9	2.8	4.2	5.0	2.6	4.2	4.6
グラウンド	3.0	4.2	2.8	1.9	0.9	0.7	0.4	1.6	2.5

※グラウンドについては冬季を除く期間（4月～11月）において週平均を算出

事業の効果

一校当たりの週平均稼働日数をみると、体育館が4.6日／週、グラウンドが2.5日／週となっている。

中学校においてグラウンドの稼働日数の数値が低いのは、部活動に使用されていることによつて一般の使用が難しくなっているものと分析され、この点を考慮すれば、学校施設は高い頻度で生涯学習や生涯スポーツ等の地域活動に利用されていると言え、学校開放が学校と地域とが関わる機会を創出する役割を果たしているものと考えられる。

点検結果・自己評価（課題・方向性）

今後の方向性	継続	<p>○学校開放の実施率は平成26年度においても100%の実施率であり、過去の実施率からも、学校開放の制度が地域に浸透しているものと考えられる。</p> <p>○学校施設の利用については、学校が地域の利用団体と連絡を密に取りながら調整して実施している点及び利用頻度が高い点から考慮すると、学校開放が学校と地域の関わりの機会となっているものとして評価できる。</p> <p>○今後も、学校が地域の生涯学習及び生涯スポーツの一拠点として機能し、また、学校と地域が繋がる機会とするため継続して実施する。</p>
--------	----	--

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう																																						
基本施策	6 生涯学習の充実																																						
施策	(1) 生涯学習推進体制の整備 (2) 生涯学習社会の基礎づくり (3) 学習機会の提供 (4) 地域活動の活性化																																						
担当部署	社会教育課																																						
施策の目的及び目標																																							
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 心豊かで充実した人生を送るため、生涯にわたり主体的に市民が自ら学び、それを地域に生かす「知の循環型社会」を目指す。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民が「いつでも、どこでも、だれでも」気軽に参加できる講座の開催するとともに、「個人のニーズ」と「社会の要請」の学習機会をバランスよく提供する。 地域のリーダー・指導者育成の講座にも取り組み、学んだ成果を社会に生かす仕組み作りを行ない、地域の活性化に取り組む。 講座・サークル・指導者等の情報提供の充実を図り、市民が学習しやすい環境づくりを行う。 講座に対する満足度 平成31年度目標値87%(生涯学習推進計画) 																																							
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況																																							
<p>○生涯学習推進講座開催事業【予算現額 4,980千円】【決算額 4,741千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民がいつでも、どこでも、だれでも気軽に生涯学習できるよう、幼児から成人までの幅広い年代層を対象とした講座を53講座、699回開催して、延べ参加人数は34,987人となった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>各時期等</th> <th>講座数</th> <th>実施回</th> <th>延べ参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼児講座</td> <td>4</td> <td>32</td> <td>1,512</td> </tr> <tr> <td>少年講座</td> <td>8</td> <td>490</td> <td>8,930</td> </tr> <tr> <td>青年講座</td> <td>6</td> <td>25</td> <td>326</td> </tr> <tr> <td>成人講座【教養・文化・健康講座】</td> <td>11</td> <td>48</td> <td>693</td> </tr> <tr> <td>家庭教育講座</td> <td>11</td> <td>68</td> <td>3,275</td> </tr> <tr> <td>指導者養成講座</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>272</td> </tr> <tr> <td>催し</td> <td>7</td> <td>25</td> <td>19,979</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>53</td> <td>699</td> <td>34,987</td> </tr> </tbody> </table> <p>○松山歴史公園整備事業【予算現額 323,233千円】【決算額 318,068千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度で整備を終え、施設は「松山城址館」と命名、平成27年1月に竣工。能舞台や茶室を備え、松山能の伝習をはじめ地域生涯学習活動の拠点整備を図った。 				各時期等	講座数	実施回	延べ参加人数	幼児講座	4	32	1,512	少年講座	8	490	8,930	青年講座	6	25	326	成人講座【教養・文化・健康講座】	11	48	693	家庭教育講座	11	68	3,275	指導者養成講座	6	11	272	催し	7	25	19,979	計	53	699	34,987
各時期等	講座数	実施回	延べ参加人数																																				
幼児講座	4	32	1,512																																				
少年講座	8	490	8,930																																				
青年講座	6	25	326																																				
成人講座【教養・文化・健康講座】	11	48	693																																				
家庭教育講座	11	68	3,275																																				
指導者養成講座	6	11	272																																				
催し	7	25	19,979																																				
計	53	699	34,987																																				
事業の効果																																							
<p>○各ライフステージに合わせた、多彩な講座を実施し、多様なニーズに対応できている。終了後のアンケートでは高い満足度を得ることができた。年間集計では講座満足度84%を達成。</p> <p>○生涯学習まつりでは、各サークルや団体の日頃に成果を発表する場を提供し生涯学習活動の活性化につなげることができた。計3日間で約15,000人の来場者であった。</p> <p>○成人講座での成果を自地域に還元したいとの感想をもらうなど、地域づくりにつながっていることが確認できた。</p>																																							
点検結果・自己評価（課題・方向性）																																							
評価	B	<p>○庁内他部署との連携をさらに深めながら事業実施する。</p> <p>○「知の循環型社会」を実現するために、指導者の人材登録・育成について引き続き積極的に推進する必要がある。 (指導者登録者 平成26年度 新規2名 計45名)</p>																																					

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう	
基本施策	6 生涯学習の充実	
施策	(5) 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携	
担当部署	社会教育課	
施策の目的及び目標		
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習団体による自主活動を推進するため運営に対し支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各補助団体が円滑な運営を行い、広く市民の生涯学習の推進を図る。 		
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況		
○生涯学習振興支援事業 【予算現額 789千円】 【決算額 789千円】		
補助団体	補助金	活動内容
酒田市子ども会育成連合会	90千円	各学区総会や関係団体会議との連携、子どもまつり参加、親子ふれあい遊びの楽校、リーダー学習会、会報発行ほか
酒田海洋少年団	144千円	子どもまつり参加、海浜清掃ボランティア、合宿訓練、東北地区指導者研修会、全国大会ほか
酒田市婦人会連絡協議会	330千円	関連団体との連携、酒田・飽海地方婦人大会、リーダー研修会ほか
酒田市青少年を伸ばそう市民会議	135千円	青少年の健全育成に係る会員研修、街頭啓発活動、巡回指導、会報発行ほか
酒田市白鳥を愛する会	90千円	自然環境づくり（マコモ植栽）、花植え環境整備、学校への出前講座、スワンパーク清掃、白鳥観察会ほか
○生涯学習施設「里仁館」支援事業 【予算現額 7,300千円】 【決算額 7,300千円】 教養講座や親子講座、特別講座等で42テーマ、開講数89回、延べ3,210人が受講した。		
事業の効果		
<p>○この事業による補助金の交付で、青少年の健全育成や婦人層の意識の高揚などそれぞれの団体活動の円滑な運営に資することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会育成連合会⇒リーダー育成研修会、安心安全マップ作り等により子ども達の安心安全な生活の実現、社会力を育むことに資することができた。 ・酒田海洋少年団⇒団体生活の規律を通じ、団員の海洋知識習得、青少年の健全育成に資することが出来た。 ・白鳥を愛する会⇒マコモの植栽等による環境整備活動により、白鳥が飛来する自然環境が整えられ、子供たちの情操教育支援に資することができた。 ・生涯学習施設「里仁館」支援事業⇒里仁館の主催事業を通じ、庄内地域の生涯学習の振興が図られた。 		
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	B	<p>○生涯学習団体が主体的に実施している有益な生涯学習活動に対して支援を行うことにより、団体の円滑な運営に資することができた。しかし、婦人会や白鳥を愛する会など団体によっては会員の高齢化や減少により会の収入の確保、団体活動の縮小となる課題がある。活動内容を十分に把握し適正な補助が行われるよう注視していく必要がある。</p> <p>○生涯学習施設里仁館の講座運営状況は、前年度より利用者数が減少した。学習内容を常に精査のうえ、多くの市民より参加いただける学習内容の充実に努めていただく。</p>

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう				
基本施策	7 図書館活動の充実				
施策	(1) 図書館機能の充実				
担当部署	図書館				
施策の目的及び目標					
○目的					
・市民の読書活動の拠点として各種図書資料をバランスよく収集し、窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を提供する。					
○目標					
算出方法	24年度	25年度	26年度	27年度 (目標)	31年度 (目標)
人口1人当たりの入館回数	3.63回	3.54回	3.59回	3.64回	3.85回
人口1人当たりの館外貸出冊数	5.0冊	4.9冊	4.9冊	5.0冊	5.2冊
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況					
○図書購入事業：【予算額23,082千円】 【決算額22,981千円】					
・一般図書等 8,686冊、児童図書等 3,214冊、雑誌等 2,117冊を購入し提供した。					
区分	24年度	25年度	26年度		
館外貸出冊数	550,436冊	535,245冊	530,560冊		
館外貸出人数	150,826人	145,955人	145,364人		
○図書リサイクルの実施					
・除籍本の有効活用のため図書リサイクルを開催し、394人の個人が参加した。					
○東北公益文科大メディアセンターとの連携					
・東北公益文科大メディアセンターを経由し329冊の貸出が行われた。					
○広報活動					
・市広報、図書館ホームページ、ハーバーラジオ及び外部情報サイト等を活用し、図書館のPRに努めた。					
事業の効果					
○図書管理システムにより、ホームページ上での貸出延長手続きや図書予約が可能となり、また、受取り館を指定することで、市立図書館のどこの館でも他の館の本を取り寄せることができ、利便性の向上が図られた。					
○ホームページでの貴重な図書資料を公開し、資料の活用が図られた。					
○図書リサイクルにより図書資料の有効活用を図った。					
○東北公益文科大との連携による「受取・返却サービス」の活用により学生や地域住民に利用されている。					
○他の公立図書館との連携により、未所蔵資料へのリクエストに対応した。					
○市広報や展示コーナーで新刊案内を図り、図書利用促進に努めた。					
○1人あたりの年間貸出し冊数は昨年度とほぼ横ばいだった。特に26歳～60歳女性の貸出し冊数は全体の38%と多かったが、同男性の貸出し冊数は全体の13%程度で伸びなかった。					
点検結果・自己評価（課題・方向性）					
評価	B	○図書の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からのリクエスト等を活用して、傾向の把握に努める。 ・DVD等は図書館にふさわしいソフトを検討し所蔵数を増やしていく。 ・地域に密着した郷土資料の資料収集等に努めつつ、限られた配架スペースを有効活用できるよう検討していく。 ○図書館利用の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・新刊紹介や特設コーナーの企画展示を工夫する。 ・広報活動により、所蔵資料や人気本を紹介し、利用促進を図る。 ・電子図書が普及し始めているので、その動向を見極めていく。 			

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう														
基本施策	7 図書館活動の充実														
施策	(2) 光丘文庫の保全と活用														
担当部署	図書館														
施策の目的及び目標															
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 光丘文庫は、大正14年に竣工し、平成8年には酒田市指定有形文化財に指定されている歴史的な建造物であり、その維持保存と公開を行う。本間家をはじめ多くの有志から寄贈された典籍や一般図書等が多く所蔵されており、その保管や分類整理及びこれらを活用した企画展示を行う。また、資料の閲覧のため全国各地からの来館者への対応やレファレンス業務を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 常設展示について、さまざまな視点によるテーマのもと、年間数回の展示替えを行い、貴重な資料のPRに努め入館者数の増加を目指す。 															
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況															
<p>○所蔵古文書の整理・分類・保存の他、企画展示、利用者への案内・説明等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的にも貴重な資料であるため、多くの専門家が訪れている。 レファレンス処理件数 72件 常設展示 (17ケース) <ul style="list-style-type: none"> 「江戸期にみる仏の世界」 5月18日～9月30日 「江戸期の酒田ゆかりの人々」 10月21日～2月28日 ギャラリートーク <ul style="list-style-type: none"> 「心の師となれ～「心を見る心」を求めて～」 7月25日 「本間郡兵衛の生涯」 11月9日 <table border="1" data-bbox="269 1126 1203 1238"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数</td> <td>4,225人</td> <td>5,101人</td> <td>4,539人</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>266人</td> <td>524人</td> <td>428人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○資料館移管資料及び国書追加寄贈分資料等の目録整理を実施 ○館報「光丘」の発行(年2回)(第145号 8/1、第146号 2/1)</p>				算出方法	24年度	25年度	26年度	入館者数	4,225人	5,101人	4,539人	利用者数	266人	524人	428人
算出方法	24年度	25年度	26年度												
入館者数	4,225人	5,101人	4,539人												
利用者数	266人	524人	428人												
事業の効果															
<p>○全国各地からの来館される研究者の方々にも必要な資料を提供できた。 ○常設の企画展示により、市民への資料紹介ができた。 ○ギャラリートークを継続し、多数の参加があった。</p>															
点検結果・自己評価(課題・方向性)															
評価	A	<p>○入館者数及び利用者数が増加するように、中央図書館に所蔵資料の紹介コーナーを設ける。 ○企画展示およびギャラリートークを継続して、文庫所蔵資料を市民に紹介していく。 ○郷土資料の保存整理と利用者への提供は図書館の重要な業務であり、保管している資料等について、継続して目録を整理していく。また、郷土資料の散逸防止のため、さまざまな情報網を活用し収集する必要がある。 ○本館とその所蔵資料を本市の歴史的遺産として後世に伝えていくため、建物の現況調査と保存及び活用方法について検討を行う。</p>													

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう
基本施策	7 図書館活動の充実
施策	(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）
担当部署	図書館

施策の目的及び目標				
○目的 ・子どもがいつでも気軽に読書に親しむ機会を提供できるように、読書環境づくりを推進する。				
○目標				
算出方法	24年度	25年度	26年度	27年度（目標）
15歳までの人口	14,246人	13,917人	13,453人	13,359人
児童・生徒1人当たりの貸出冊数	12.1冊	11.6冊	11.9冊	12.1冊
※27年度の人口は平成27年5月31日現在の数値				

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況				
○子ども読書活動推進事業：【予算額589千円】 【決算額540千円】				
<ul style="list-style-type: none"> ・「酒田市子ども読書活動推進計画」に基づいて各種事業を実施した。 ・「お話し会」を23回実施し、延べ577人の親子が参加した。 ・「赤ちゃんの読み聞かせ教室」を12回実施し、延べ212人の親子が参加した。また、お父さんを対象とした教室も実施した。 ・「読み聞かせボランティア講座」を6回実施し、延べ65人が参加した。 ・「おやこ絵本づくり講座」を2回実施し、延べ131人の親子が参加した。参加者は前年の118人から大幅に増加した。 ・絵本作家の講演会を実施し、一般や子ども等71人が参加した。 				
算出方法	24年度	25年度	26年度	
児童図書の間貸出冊数	173,226冊	162,314冊	160,741冊	
学校団体貸出の間貸出冊数	1,957冊	1,530冊	2,168冊	

事業の効果				
○「お話し会」は、幼児期からの本に親しむきっかけともなり、会場が児童図書室であることから、児童図書の利用増加が期待される。				
○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」はブックスタートをきっかけとして、読み聞かせに関心を持たれたお母さんの学習の場となり、児童図書室のPRにも役立っている。				
○ブックスタート事業により、乳児への読み聞かせをよくする保護者の割合が高まっている。				
○「読み聞かせボランティア講座」は基礎編とステップアップ編の2部構成とし、小学校や各施設等での読み聞かせに活用され、ボランティアの育成に繋がった。				
○「おやこ手作り絵本講座」は多くの参加者があり、自ら創る絵本への関心の高さが伺われた。				

点検結果・自己評価（課題・方向性）				
評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」はブックスタート事業と連携した事業で参加者も多く、長期的な視点で継続・充実させる。 ○講演会や各種講座の開催により、図書館活動への関心を高め、貸出冊数の増加に繋げる。 ○「絵本だより」や「学校向けパンフレット」等の活用により、学校等の団体貸出の増加を図る。 ○団体貸出先として、学校以外の施設等に対してもPRを行う。 ○読書習慣を身に付けるためにも、幼少期から継続して本に親しむことができるよう、子ども読書活動推進計画の実施を関係各課等との連携を図りながら継続して取り組みを行う。 		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす
基本施策	10 歴史・文化遺産の保存と活用
施策	(1) 文化財等の保存と活用
担当部署	社会教育課

施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の貴重な財産であり観光資源でもある文化財について、関係機関と連携しながら、地域の活力を活かし有効な保存、活用を図る。 ・「湊町酒田の文化的景観」として本市の価値調査を行うとともに、啓発事業を通じて市民の理解を深める。 ・市内に存在する資料について調査し、貴重なものについては指定を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展の充実や観光事業との連携により、文化財施設の入館者数を増やす。 	

平成26年度 主な事業の概要及び実施状況																	
<p>○文化財保護総務管理事業 【予算現額 9,138千円】【決算額 8,097千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試掘調査2箇所（亀ヶ崎三丁目地内、亀ヶ崎小グラウンド） ・城輪柵跡南門築地塀の修繕 <p>○文化財施設管理運営事業 【予算現額 44,444千円】【決算額 43,590千円】</p> <p>市立資料館、旧白崎医院、旧鑑屋、旧阿部家、文化伝承館の管理運営経費</p> <p>○文化財保存活動支援事業 【予算現額 13,109千円】【決算額 13,109千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市指定文化財浄福寺唐門の修復工事へ助成 <p>○文化的景観保護推進事業 【予算現額 500千円】【決算額 400千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特性調査の追加調査及び検証作業委託 ・文化的景観セミナーの開催（2/1 山形県との共催事業、50人参加） （講演「景観から読む湊町酒田の歴史」愛知県立大学准教授山村亜希氏、事例発表「重要文化的景観への取り組みとまちづくり」山形大学教授下平裕之氏、事例発表「まち歩きを通して見た湊町酒田の町家と文化的景観の特徴」東北公益文科大学教授温井亨氏） <p>○さかた歴史街道事業 【予算現額 1,506千円】【決算額 1,460千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと歴史講座の開催2回（8/5 復元体験講座） （10/4、11、25「酒田の歴史を学ぶお墓めぐり」、講師：須藤良弘氏） 	<p>文化財施設入館者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旧鑑屋</td> <td>16,592人</td> <td>17,180人</td> <td>15,874人</td> </tr> <tr> <td>旧白崎医院</td> <td>2,128人</td> <td>2,243人</td> <td>1,997人</td> </tr> <tr> <td>旧阿部家</td> <td>2,967人</td> <td>2,782人</td> <td>2,648人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※旧鑑屋は25年度から指定管理委託</p>	施設名	24年度	25年度	26年度	旧鑑屋	16,592人	17,180人	15,874人	旧白崎医院	2,128人	2,243人	1,997人	旧阿部家	2,967人	2,782人	2,648人
施設名	24年度	25年度	26年度														
旧鑑屋	16,592人	17,180人	15,874人														
旧白崎医院	2,128人	2,243人	1,997人														
旧阿部家	2,967人	2,782人	2,648人														

事業の効果	
<p>○貴重な文化財や歴史資料の散逸を防ぐとともに、適正に管理保存し、機会を設けて展示等を実施することにより、多くの市民へ文化財保護の重要性をPRすることができ、理解を深めることができた。</p> <p>○文化的景観保護推進事業については、これまでの調査成果をセミナーや歴史講座に活用し、事業の普及と活用に努めた。</p> <p>○入館者数は減少傾向にある。とくに旧鑑屋については市役所の建設工事の影響も考えられるが、入館料等の収入は僅かに増加している点で、指定管理者の努力は評価できる。</p>	

点検結果・自己評価（課題・方向性）	
-------------------	--

評価	B	<p>○文化財や歴史的資料は地域の貴重な財産であるため、今後も継続して収集と保存に努める必要がある。</p> <p>○各種施設整備に伴い、最近では発掘調査が増えている状況にあるため、専門職員の養成及び配置について継続して検討していく。</p> <p>○文化的景観保護推進事業については、これまでの調査成果を歴史講座等を通して、多くの市民へ歴史文化に対する理解と関心を深めていく。</p>
----	---	---

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす														
基本施策	10 歴史・文化遺産の保存と活用														
施策	(2) 地域における民俗文化財の保存と活用														
担当部署	社会教育課														
施策の目的及び目標															
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形文化財の保護・継承を行う人材や団体を育成、支援する。 ・「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能や伝統文化の保護を目的に、民俗芸能団体の後継者の育成、関係団体の交流を図り、団体活動を支援する。 ・酒田市民俗芸能保存会への加盟の促進を図る。 															
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況															
○文化財保存活動支援事業		入場者数													
【予算現額 13,109千円】															
【決算額 13,109千円】															
・酒田市民俗芸能保存会、松山能振興会、松山藩		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民俗芸能フェスタ</td> <td>1,037人</td> <td>800人</td> <td>890人</td> </tr> <tr> <td>黒森歌舞伎酒田公演</td> <td>650人</td> <td>600人</td> <td>600人</td> </tr> </tbody> </table>		項目	24年度	25年度	26年度	民俗芸能フェスタ	1,037人	800人	890人	黒森歌舞伎酒田公演	650人	600人	600人
項目	24年度	25年度	26年度												
民俗芸能フェスタ	1,037人	800人	890人												
黒森歌舞伎酒田公演	650人	600人	600人												
荻野流砲術伝承保存会に対する支援を行った。															
○さかた歴史街道事業		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民俗芸能保存会加盟団体数</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table>		項目	24年度	25年度	26年度	民俗芸能保存会加盟団体数	33	33	33				
項目	24年度	25年度	26年度												
民俗芸能保存会加盟団体数	33	33	33												
【予算現額 1,506千円】															
【決算額 1,460千円】															
<ul style="list-style-type: none"> ・「民俗芸能フェスタ」を開催し、県内外の民俗芸能を紹介するとともに、市内の保存団体への出演機会を提供した。また、長年の伝統芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各地域における上演日や演目などをまとめたプログラムを作成するなど、加盟団体を広く市民に紹介した。 ・イベント等での出演が増え、活動が広がっている。主なものとして「出羽庄内文化遺産フォーラム」に黒森歌舞伎と新山延年舞が出演した。黒森歌舞伎は、他にも「北前歌舞伎祭」や福島県での公演に出演している。また、「日本一さくらんぼまつり」に福山神楽が、「松山城址館竣工式」に松山能が出演している。 															
事業の効果															
<p>○「民俗芸能フェスタ」は45回を数え、民俗芸能の保存継承だけでなく、地元団体と他県や市外の民俗芸能団体との相互交流や、情報交換の場として重要な役割を果たした。</p> <p>○黒森歌舞伎については、BS放送等のメディアでの紹介が増え、より一層全国的にも認知されるところとなった。</p> <p>○小学生から高校生まで出演機会の提供に努め、民俗芸能の底辺拡大を図ることができた。</p>															
点検結果・自己評価（課題・方向性）															
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○民俗文化財は地域の貴重な財産であり、後世に継承・保存していくために、一層の周知が必要である。 ○民俗芸能保存会と連携して未加盟団体の加盟を促進していくとともに、後継者育成などの課題解決に向けて支援を行っていく。 ○「民俗芸能フェスタ」の映像記録、酒田市民俗芸能保存会が行っている各保存会の活動記録、黒森歌舞伎正月公演の映像記録などを後継者育成などに活用を図っていく。 													

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす																																															
基本施策	10 歴史・文化遺産の保存と活用																																															
施策	(3) 地域資料の収集と保存																																															
担当部署	社会教育課																																															
施策の目的及び目標																																																
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立資料館、松山文化伝承館の管理運営と活用を図り、郷土の歴史等に対する市民の理解を深めることを目的とする。 文化財の保存と管理を行うとともに、市民への公開に努める。 歴史的に価値のある郷土の資料の散逸を防止するため、購入や受け入れを行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展示を工夫するなどしてPRに努め、入館者数の増加を目指す。 																																																
平成26年度 主な事業の概要及び実施状況																																																
<p>○文化財施設管理運営事業【予算現額 44,444千円】【決算額 43,590千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保存資料の購入（伊藤鳳山掛軸ほか） <p>○学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立資料館 小中学校来館校数 19校、来館者総数 729人 松山文化伝承館 小中学校来館校数 2校、来館者総数 152人 城輪柵跡 小中学校の見学校数 6校、見学者総数 284人 <p>○文化的資料の相談や情報提供業務（レファレンス）</p> <p>入館者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市立資料館</td> <td>6,151人</td> <td>5,790人</td> <td>6,482人</td> <td>企画展 年5回</td> </tr> <tr> <td>松山文化伝承館</td> <td>6,188人</td> <td>3,005人</td> <td>3,889人</td> <td>企画展 年5回</td> </tr> <tr> <td>阿部記念館</td> <td>159人</td> <td>154人</td> <td>167人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>文化財及び歴史資料の収集・保存状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市立資料館</td> <td>2,383件</td> <td>3,393件</td> <td>647件</td> </tr> <tr> <td>松山文化伝承館</td> <td>125件</td> <td>32件</td> <td>23件</td> </tr> </tbody> </table> <p>レファレンス（調査・問い合わせ等）対応状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市立資料館</td> <td>58件</td> <td>48件</td> <td>37件</td> </tr> <tr> <td>松山文化伝承館</td> <td>13件</td> <td>11件</td> <td>11件</td> </tr> </tbody> </table>					施設	24年度	25年度	26年度	備考	市立資料館	6,151人	5,790人	6,482人	企画展 年5回	松山文化伝承館	6,188人	3,005人	3,889人	企画展 年5回	阿部記念館	159人	154人	167人		施設	24年度	25年度	26年度	市立資料館	2,383件	3,393件	647件	松山文化伝承館	125件	32件	23件	施設	24年度	25年度	26年度	市立資料館	58件	48件	37件	松山文化伝承館	13件	11件	11件
施設	24年度	25年度	26年度	備考																																												
市立資料館	6,151人	5,790人	6,482人	企画展 年5回																																												
松山文化伝承館	6,188人	3,005人	3,889人	企画展 年5回																																												
阿部記念館	159人	154人	167人																																													
施設	24年度	25年度	26年度																																													
市立資料館	2,383件	3,393件	647件																																													
松山文化伝承館	125件	32件	23件																																													
施設	24年度	25年度	26年度																																													
市立資料館	58件	48件	37件																																													
松山文化伝承館	13件	11件	11件																																													
事業の効果																																																
<p>○史跡や指定文化財を広く市民に公開し、地域の歴史や文化財への理解を深めるきっかけづくりのため、各種の企画展示事業を開催し、多くの市民へ文化財をPRすることができたほか、学校教育にも活用された。</p> <p>○歴史的に価値のある郷土の資料等については、購入や寄付の受け入れを行い、散逸を防ぐとともに、収集、保存に努めた。</p> <p>○魅力ある展示内容にするよう工夫検討し、ホームページやフェイスブック、マスコミ等を活用してPRに努めた。</p>																																																
点検結果・自己評価（課題・方向性）																																																
評価	B	<p>○資料館、文化伝承館ともに、所蔵品にこだわらず、時機を得た企画展示を工夫した結果、昨年度よりも入館者を増やすことができた。</p> <p>○阿部記念館については、展示内容のほか保存管理のあり方について検討する。</p>																																														

平成26年度 地域の教育力向上事業実績

	コ ミ 振 名	実施事業概要	実施 事業数	実施 日数	参加 人数
1	西荒瀬 コミュニティ振興会	育てよう！わくわく夢の森(学習林である、クロマツ林の手入れと学習)花 いっぱいフレンドリー活動(花壇、プランターへの花植え)日向川源流体 験(日向川の恩恵を学び、自然を大切にすることを養う・鳥海山登山)ふ るさと産品調理教室(子どもたちに地場産品を主にした食物のおいしさ を伝える。)干し柿づくり(児童がつくり、高齢者の一人暮らしへ配布)鮭 料理教室(日向川で捕獲した鮭を使った料理を学ぶ)	6	6	469
2	新堀 コミュニティ振興会	3世代交流「アグリチャレンジ26」(稲作、俵あみ)、最上川自然探検隊(最上 川川下り、刺し網、カニ漁)、伝統芸能伝承(五カ村神楽舞)、世代間交 流(七夕まつり)、世代間交流(凧づくり・凧上げ)	5	9	622
3	広野 コミュニティ振興会	旧跡を尋ねて(旧跡、神社の歴史を学ぶ)三世代交流事業:三耕園花 植え(広野小校門花壇の花植え)、紅花を育てる(紅花の栽培、加工)、 おにぎり教室(ご飯の良さ実感)、陶芸に親しむ(陶芸体験)、餅つき体 験、縄ない体験、手作り体験(調理実習、流しソーメン、絵手紙、書き初 め)、伝統芸能(庄内出羽人形学びと体験)	9	30	783
4	浜中 コミュニティ振興会	子ども交流事業(農作業体験(野菜・花の栽培)、浜っ子るんるんひろば (放課後、地域の人と遊び学ぶ)、世代間交流事業(読み聞かせ、園児 の歌と踊り、高齢者との交流)、浜中・黒森交流会(ソバ打ち、歌舞伎の 化粧体験)、スポーツ教室(野球、綱引き、バドミントン)	4	44	1,580
5	黒森 コミュニティ振興会	孫親学級(昔の遊びや工作体験)、浜・黒6学年交流会、三世代くもり んピック(ウォーキング)、少年ふれ太鼓、少年歌舞伎・太鼓、あったか! 年越大作戦(手作りグッズ作成、掃除ボランティア)、黒森っ子子育て ネットワーク(上映会)	7	10	444
6	十坂 コミュニティ振興会	三世代交流(昔の暮らしの体験談)、親子ふれあい健康講座(食育、調 理実習等)、バンジーサークル(笹巻、巻きずし作り体験)	4	4	543
7	東平田 コミュニティ振興会	農作業体験(田植え、刈取り作業体験、収穫を感謝する会)、自然とのふ れあい(魚釣り大会)、郷土歴史体験(焼き物)	3	6	160
8	中平田 コミュニティ振興会	一坪菜園(親子で作物栽培)、おばけかぼちゃランタン作り、子ども神楽 (手蔵田神楽)、どんぐりの読み聞かせ会、世代交流グラウンドゴルフ、 竹細工と昔遊び	6	34	416
9	北平田 コミュニティ振興会	おばけかぼちゃコンテスト、園児の茶道体験、読み聞かせ会、ひょうたん 作り	4	6	197
10	上田 コミュニティ振興会	上田太鼓教室、サマースクール(野外活動、調理実習、工場施設見学、 カヌー等)、ものづくり教室、ひなまつり茶会	4	104	707
11	本楯 コミュニティ振興会	ふるさと文化学習事業(ウォークラリー、ハンバーコン作り)、もとたてグ ローカル・スタディ事業(稲作体験、サクラマス放流、花の栽培と舞茸育 成)、もとたて地域つながり事業(ボランティア講習会、村の名人、通学 合宿)	8	22	1,709
12	南遊佐 コミュニティ振興会	七夕フェスタ(園児ゆうぎ等)、まなびの里教室(刺し子、英会話、フラダン ス、ペタンク)、ふれあいグラウンドゴルフ、南遊佐の歴史めぐり、すくすく みんなで交流大会(老人クラブと保育園児の交流)、チャレンジそば打 ち体験、卒業お茶会	7	11	582

平成26年度 地域の教育力向上事業実績

	コ ミ 振 名	実施事業概要	実施 事業数	実施 日数	参加 人数
13	一條 コミュニティ振興会	夏休み！八森自然公園噴水ピカピカ作戦、敬老の日お手紙作り、センター駐車場ピカピカ作戦！ハロウィンコンサート、親子体験昔遊び、習字教室、雪遊び、地域講座	8	8	719
14	観音寺 コミュニティ振興会	にこにこ体験隊(田植え、開運出世の滝、夏祭り、稲刈り、ネイチャーゲーム、餅つき、だんご木作り、雪遊び)、絵灯籠作り	6	6	374
15	大沢 コミュニティ振興会	大沢地区地域交流会(太鼓演奏、料理教室等)、大沢清流太鼓活動、大沢地区通学合宿、畑の学校(ジャガイモ、サツマイモ等)	4	15	636
16	日向 コミュニティ振興会	「日向ぼっこスクール」畑の楽校、はたる観賞、夏の星空観察、宝もの探し、(地域へ愛着をもつための宝をさがす)干し柿作り、一人暮らしの高齢者へ、クリスマスクッキー作り・年賀状作り)、雪まつり	7	10	399
17	南部 コミュニティ振興会	地見っ子ふれあい協議会(自然散策、地引網体験、サケ採り体験、雪中ゲーム、スノーランタン作り等)、通学合宿、伝統芸能鑑賞会(臼ヶ沢神楽観賞会)、ふれあい音楽会、そば打ち、手作りおやつ、高齢者世帯にクリスマスを(カード、弁当等の作成と配布)	7	12	564
18	山寺 コミュニティ振興会	庄内米づくり、豆腐づくり、さつまいもを育てよう、読み聞かせ事業、伝統芸能文化伝承(茶道、生け花、狂言)、チャレンジ講座(早起き体操、方言カルタ、篆刻作り)	7	29	402
19	松嶺 コミュニティ振興会	チャレンジ教室(野菜作り、チャレンジ体操、料理、茶道、ケーキづくり)	5	11	290
20	内郷 コミュニティ振興会	木工教室、陶芸教室、内郷学区通学合宿、親子料理教室、新社会人ボランティアフェスティバル	4	7	59
21	田沢 コミュニティ振興会	中学生ボランティア活動、地元体験事業(ペタンク、ピアノコンサート、長堀牧場酪農体験、なわ細工、さしこ教室、ピエロパフォーマンス)、ガラスエッチング体験、地元施設でのコンサート	4	11	186
22	東陽 コミュニティ振興会	農業体験教室、東陽通学合宿、ふるさと体験(乳しぼりとバター作り体験、野焼き作品作り、野焼き体験)、花まる交流会(花植え、野菜栽培、書き初め教室)	4	10	144
23	郡鏡・山谷 コミュニティ振興会	宿泊研修、水生生物学習会、地域交流事業(陶芸、ガラスアート、リース作り)	3	7	103
24	南平田 コミュニティ振興会	伝統芸能伝承(飛鳥祭奴振り・檜橋神代神楽)、さしこ教室、そば打ち体験、なしだんご作り体験	3	30	498
25	砂越・砂越緑町 コミュニティ振興会	通学合宿、刺し子体験、竹細工	3	3	93
合 計			132	445	12,679

平成26年度 生涯学習推進講座開催事業実績

区分	事業名	実施回数	延人数
幼児	わくわくちびっこ広場	3	347
	わらべのひな祭り展	13	837
	孫と一緒に♪リトミック	4	58
	幼児すてっぷ出前講座	12	270
少年	酒田マリーングジュニア合唱団	45	933
	新春書初め会（正月行事）	1	58
	正月行事「みんな集まれ！お！正月」	1	160
	わいわい出前講座	10	871
	中高生ボランティア	98	616
	地域人材交流講座	333	6,247
	かんたんかわいいデコ弁つくっちゃお♪	1	16
	冬あそびお泊り会	1	29
青年	はじめて学ぶ筆ペン講座	3	49
	基本の料理	10	119
	この夏はじめる・体感ボルダリング講座	2	13
	暮らしの彩り☆ワイン講座	2	28
	新成人のマナー講座	1	13
	成人式実行委員会（リハ・本番）	7	104
成人	暮らしに役立つDIY教室	5	79
	歴史を学ぶお墓巡り講座	3	28
	ふるさと自然倶楽部	5	42
	自分のための終活講座	3	65
	男のおもてなしキッチン	8	77
	はじめて学ぶ筆ペン講座	3	67
	市民企画講座「リズムでステップ」	5	49
	市民企画講座「はじめてのヨガレッスン」	5	91
	東北公益文科大学市民大学講座（昼の部）	3	76
	東北公益文科大学市民大学講座（夜の部）	5	36
家庭教育	東北公益文科大学市民大学出前講座	3	83
	みんなで遊ぼう「さんさん学級」	6	122
	親子ですくすく出前講座	26	1,300
	地域家庭教育講座	19	840
	赤ちゃん登校日	7	195
	勝ち飯でパワーアップ講座	1	15
	親育ちステップ講座	1	14
	市民企画講座（プレママららら♪）	2	13
	もっと仲良くなろう「パパと一緒に」	3	68
	かんたんかわいいデコ弁つくっちゃお♪（親子）	1	24
指導者養成	安心・安全上手なスマホのつきあい方講座	1	34
	家庭教育講演会	1	650
	ホール音響・照明操作講習会	6	57
	少年団体リーダー研修会	1	100
	地域の教育力向上 スキルアップ講座	1	14
	推進員企画講座Ⅰ（男のパン作り講座）	1	13
	推進員企画講座Ⅱ（コーヒーde健康生活のすすめ講座）	1	29
コミュニティ振興会連携事業	1	59	
催し	出羽遊心館春の市民茶会	1	430
	生涯学習まつり2014	3	15,440
	正月行事展	9	1,058
	酒田市風あげ大会	1	200
	巨大迷路	9	2,531
	マリーングジュニア定期演奏会	1	200
	吉野弘朗読会	1	120
	合計	699	34,987
	参考：25年度	615	39,841
	参考：24年度	616	35,487

東北公益文科大学市民講座実績（内訳）

・市民大学講座

26 昼の部：座学形式、夜の部：ワークショップ・ディスカッション形式

昼の部テーマ「酒田の魅力再発見パート2」

No.	演 題	人数
1	酒田の文化を伝統食・行事食から考える	27
2	料亭建築から見る食文化	24
3	これからの『食』から新たな魅力を発見	25
計		76

夜の部テーマ「あなたの夢を実現しよう」～あなたが自分らしく輝くことが魅力ある町づくりにつながります～

No.	演 題	人数
1	夢を語る	8
2	庄内未来デザイン論 ～みんなが描く庄内、どんなものに。10年後の自分を考える～	8
3	私ができる酒田改造計画（観光編・地域コミュニティ編）	6
4	実現するための作戦、企画書をつくる	7
5	夢実現へのプレゼンテーション	7
計		36

〈参考：市民大学〉

25年度	講座数	受講者数
昼の部	5	180
夜の部	3	46
24年度	講座数	受講者数
昼の部	5	180
夜の部	3	38

・出前講座

No.	演 題	人数
1	気持ちの通じるコミュニケーションのとり方	14
2	「うわさ・流言・デマの社会学」-人はなぜうわさを信じるのか-	37
3	「一人一人の生きがいづくり」～庄内の魅力発信～	32
計		83

〈参考：出前講座〉

年度	回数	受講者数
25年度	6	232
24年度	6	372